

教科名	国語	科目名	現代文A	単位数	3単位
対象学年	第2学年（普通科・総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> <li>② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。</li> <li>③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。</li> <li>④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</li> <li>⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</li> <li>⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</li> <li>⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。</li> <li>⑧ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小テスト・定期考査の成績</li> <li>②出席状況、授業態度</li> <li>③課題提出</li> <li>④ノート作成</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</li> <li>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</li> <li>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</li> </ul>				
教科書・教材等	『現代文A』『現代文A 学習課題ノート』 東京書籍 『チャレンジ常用漢字』第一学習社 国語辞典				

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想・評論 「さくらさくらさくら」 小説 「みどりのゆび」	・筆者独自のものの見方、「桜」に対する日本人独自の感覚を読み取る。 ・人物や情景、心理描写を的確に読み取る。	9	・文体や修辞などの表現上の特色を的確にとらえ、その文章の魅力を理解することができる。 ・人物や情景、心理描写から、登場人物の心の動きを的確に読み取ることができる。
5	随想・評論 「ミロのヴィーナス」  「言葉と世界」	・抽象概念を示す言葉に注意して、文章の構成を理解する。 ・言語という身近なものに素朴な疑問を持つ。	12	・対義語や抽象的な語句の意味・用法を的確に理解している。 ・筆者が述べていることを叙述に即して的確に読み取り、要旨をまとめることができる。 ・抽象的な表現による文章の構成、身近な存在である言語の特徴を理解している。
6	小説 「ナイン」  言語活動 朗読して味わう	・家族や仲間の題材から、心のふれ合いについて考える。 ・朗読の注意点確認し、聞き手に読み手の心情が伝わるように朗読する。	12	・作者独特の比喩に込められた暗示性を理解している。 ・小説における比喩を使った象徴的な表現も理解している。 ・さまざまな作品を朗読する時の留意点を理解している。
7	随想・評論	・古典との付き合いと人間	12	
8	「塩一トンの読書」	・どうしの関係の共通点と相違点を理解する。		・筆者の読書に対する考えを理解している。 ・本文にある慣用語、文学作品、比喩を理解している。
9	『「おのずから」を感じ取る』	・筆者の言う「おのずから」と「みずから」の違いを理解する。	12	・「仕事」に関する筆者の考え方と「おのずから」と「みずから」の違いを読み取り、筆者の仕事に対する考えを理解している。
10	小説 「カンガルー日和」	・本来結びつかない「カンガルー」「日和」を結びつけた意図を理解する。	12	・僕と彼女の会話から登場人物の人間像と、その心理変化を理解している。
11	「こころ」	・場面の展開と「私」とKの関係、Kの心理と人間性を理解する。	12	・文学作品に関心を持って取り組みことができる。 ・「私」とKの関係、物語の展開とそれぞれの心理と人間性を的確に読み取ることができる。
12	随想・評論 「もう一つの知性」 言語活動 「外国文化の影響を調べて発表する」	・「情報化社会」について筆者の批判的な考えを理解する。 ・外国文化で現代日本に影響を与えた題材を選び、具体的に調べる。	9	・「情報化社会」への批判的意見、人間の「知性のあり方」に対する考えを正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。 ・日本文化に影響を与えたとと思われることを探し出し、その内容を調べて考察している。
1	随想・評論 「環境史」から考える	・明治時代の新聞予言をもとに筆者が述べようとしていることを理解する。	9	・明治時代の新聞の予言をもとにした筆者の意見、筆者の言う近代化の弊害を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。
2	小説 「山月記」	・李徴の発言で構成されていることを理解する。	12	・前半に集中している漢語の意味を理解している。 ・李徴の状況と心理状態、虎になって語る自己分析と心理を的確に理解している。
3	言語活動 「読み比べて考える」	・テーマに沿った本を探し、考えをまとめ、グループで効果的に話し合う。	9	・テーマに関連のある本に書かれていることから自分の考察を広げている。

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ類・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価する。</li> <li>② 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。</li> <li>③ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりする。</li> <li>④ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現する。</li> <li>⑤ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てる。</li> <li>⑥ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。</li> <li>⑦ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</li> <li>⑧ 個々の進度に合わせて、演習問題に取り組む。</li> </ul>				
評価の観点・評価の方法	<p>*観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>*評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①小テスト・定期考査の成績</li> <li>②出席、授業態度</li> <li>③課題提出</li> <li>④ノート作成</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</li> <li>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</li> <li>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</li> </ul>				
教科書・教材等	『現代文B』『現代文B学習課題ノート』 明治書院 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 『クリアカラー国語便覧』 数研出版 国語辞典				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	随筆 「桜との出会い」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良、吉野、京都それぞれの桜について内容をまとめる。</li> <li>・筆者の桜への思いを読み解く。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜をテーマにした随想から、筆者の感性と表現方法を読み味わい、感性を磨くことができる。</li> <li>・随想の文章から筆者のものの見方・感じ方を読み取ることができる。</li> </ul>
5	「本を積んだ小舟—ファブル『昆虫記』」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書の意味について考えを深める。</li> </ul>	12	
6	小説（1） 「山月記」 評論（1） 「この瞬間を歴史に刻む」 「脳のなかの古い水路」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文調の文体独特の効果を味わう。</li> <li>・大きな時間の流れの中で、「歴史」をとらえる視点を学ぶ。</li> <li>・評論において具体例がどのように結論の根拠になっているかを学ぶ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短編小説の舞台設定、構成、文体の特徴をつかむことができる。</li> <li>・具体例や対比の表現から筆者の主張をとらえる。</li> </ul>
7,8	詩 「小景異情」 「永訣の朝」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韻律に注意し、描かれた情景や心情にふさわしい朗読を工夫する。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評論の文章について論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> </ul>
9	評論（2） 「近代都市のレトリック—カワイと搭状建築」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西洋の都市と日本の都市形成を対比的に捉え、日本の特色を明確にする。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の意味・用法を理解し、語彙を豊かにする。</li> <li>・作者の文学史上の功績を知る。</li> </ul>
10	小説（2） 「ハキリアリ」 評論（3） 「科学と世界観」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長編小説における場面展開を的確に理解する。</li> <li>・「科学技術」の「進歩」について今日的な視点で問題点を捉える。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模試を視野に入れ、読解のポイントを意識して文章を読み解くことができる。</li> </ul>
11	「いのちのかたち」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の死と誕生について筆者の捉え方を学ぶ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハキリアリが意味するものを、小説全体を見据えて読み解くことができる。</li> <li>・「科学技術」の進歩がもたらす負の部分をつまみ、将来への展望を考察する。</li> </ul>
12	短歌・俳句	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の作風の特徴をつかみ、感動の焦点を明らかにする。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学への筆者の主張をまとめ、意見文を書く。</li> </ul>
1	評論（4） 「モードの視線」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な表現で書かれた評論を読み、論の展開や要旨をつかむ。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感動の焦点を明らかにする手法を学び、創作する。</li> </ul>
2	「身体という受動性」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題意識に応じた話題の取り上げ方を学ぶ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まなざしを身にまとう」の意味を、文脈に沿ってまとめることができる。</li> </ul>
3	実用的な文章 「報道文と判決文」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報道文や判決文を読んで、構成、展開、要旨などを的確に捉える。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「身体性」という言葉の意味を明らかにして、「身体」についての筆者の考えをつかむことができる。</li> </ul>
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・判決文を読み比べて批評し、論拠を明確にして自分の考えをまとめ、発表することができる。</li> </ul>

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（普通科進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> <li>② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。</li> <li>③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。</li> <li>④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</li> <li>⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</li> <li>⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</li> <li>⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。</li> <li>⑨ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <p>①小テスト・定期考査の成績</p> <p>②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出</p> <p>④ノート作成</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</li> <li>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</li> <li>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</li> </ul>				
教科書・教材等	『標準現代文B』『標準現代文B学習課題集』 第一学習社 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 国語辞典				

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想 『『私』という『自分』』 「耳を澄ませば世界は広がる」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分らしく生きる」ことについて、考える契機とする。</li> <li>・自己表現について主体的に考え、実行していく契機とする。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随想の読み方を習得できたか。</li> <li>・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。</li> <li>・「自分を表現する」ということと「自分を聞く」ということの関係について理解し、コミュニケーションの方法について主体的に考える。</li> </ul>
5	小説 「調律師のるみ子さん」 「デューク」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小説の読み方を学ぶ。</li> <li>・登場人物の心情の変化を的確に読み取る。</li> <li>・一人称で書かれた小説の特徴をつかむ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代小説の読解のしかたを習得する。</li> <li>・主人公の過去と、現在おかれた状況について整理し、その行動とのつながりを読み取る。</li> <li>・それぞれの場面における登場人物の言葉、行動から、その心情を読み取る。</li> </ul>
6	評論 「新しい地球観」 「イリュージョンなしに世界は見えない」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随想的要素を持つ評論の読み方を習得する。</li> <li>・論理的な文章の読み方を習得する。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得する。</li> <li>・様々な地図が形作る「世界の見方」について考える。</li> <li>・論理的な文章の読み方を習得する。</li> <li>・筆者が考える「イリュージョン」とはどのようなものかを理解し、その重要性について考える。</li> </ul>
7	詩 「そこにひとつの席が」 「この世」 「永訣の朝」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の基本的な鑑賞のしかたを習得する。</li> <li>・詩にこめられた作者の思いを読み取り、言語に対する感性を磨く。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代詩・近代詩の鑑賞のしかたを習得する。</li> <li>・詩にこめられた情景や心情を読み取る。</li> <li>・作品の主題をまとめる。</li> <li>・擬人法の効果、視点の逆転について理解する。</li> </ul>
8	評論 「情けは人の…」 「マジ？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の言葉に対するこだわりや愛着を理解する。</li> <li>・具体的な言葉の意味の変遷を通して、言語の歴史について考える。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得できたか。</li> <li>・ことわざの誤用が生じる要因を読み取ることができる。</li> <li>・「マジ」という言葉の「語誌」を例として、言葉の意味の変遷・言葉の歴史について理解している。</li> </ul>
9	小説 「相棒」 「ナイン」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の性格・心理・行動を読み取る。</li> <li>・語り手の存在を意識し、全体構成をつかむ。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・題名にこめられた意味について考えられる。</li> <li>・作品の主題を理解し、人や人生に対する見方を深られている。</li> </ul>
10	言語活動 「創作の楽しみ・短歌と俳句」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌と俳句の違いについて、認識を深める。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短歌・俳句特有の修辞やリズムについて学び、その効果について理解している。</li> </ul>
11	評論 「個人研究と科学」 「僕らの時代のメディア・リテラシー」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・趣味について、「個人研究」という観点からその広がりを考える。</li> <li>・メディアについて理解し、情報を的確に取捨選択する姿勢を養う。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が「個人研究」にどのような価値や意義を見いだしているかを理解している。</li> <li>・メディアの「切り上げ」「切り下げ」について理解する。</li> <li>・メディアを見る姿勢について、身近な番組などを例にして考える。</li> </ul>
12	小説 「鼻」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の小説を読んで、読解力を養う。</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の代表的な短編小説を読解できる。</li> <li>・内供の人物像や心情の変化を読み取れる。</li> </ul>
1	小説 「こころ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長編小説を読んで、読解力を養う。</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代の代表的な長編小説を読解できる。</li> <li>・登場人物の性格・心理・行動を読み取り、その変化をつかむことができる。</li> </ul>

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	近代以降のさまざまな文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> <li>② 文学的な文章について、登場人物の心情、情景描写、物語の展開などを的確にとらえ、表現を味わう。</li> <li>③ 学習を通して、人間、社会、自然などについて自己の考えを深め、表現する。</li> <li>④ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞法など表現の技法について理解する。</li> <li>⑤ 様々な情報を収集、活用し、表現に役立てる。</li> <li>⑥ 就職試験・入学試験に対応した問題演習を行う。</li> <li>⑦ 漢字や語句の反復学習（小テストも含む）に取り組む。</li> <li>⑩ 校内読書感想文・体験記コンクールをひとつの契機とし、教科書以外の書物に接する機会を提供するとともに、文章を書くことによって自分の考えを的確に表現する姿勢を養う。</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>※観点は以下の5点</p> <p>①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>※評価方法（以下を考慮し総合的に行う）</p> <p>①小テスト・定期考査の成績</p> <p>②出席状況、授業態度</p> <p>③課題提出</p> <p>④ノート作成</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、難解な語句については辞書で意味・用法を確認し、ノートにまとめる。</li> <li>② 授業ではキーワードに着目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</li> <li>③ 単元の終わりには学習課題ノートを使って理解を深める。</li> </ul>				
教科書・教材等	『標準現代文B』『標準現代文学習課題集』 第一学習社 『チャレンジ常用漢字』 第一学習社 国語辞典				

年間授業計画				
月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	随想 『私』という『自分』 「耳を澄ませば世界は広がる」	・「自分らしく生きる」ことについて、考える契機とする。 ・自己表現について主体的に考え、実行していく契機とする。	9	・随想の読み方を習得できたか。 ・具体例と抽象的な記述との関係を理解する。  ・「自分を表現する」ということと「自分を聞く」ということの関係について理解し、コミュニケーションの方法について主体的に考える。
5	小説 「調律師のるみ子さん」 「デューク」	・小説の読み方を学ぶ。 ・登場人物の心情の変化を的確に読み取る。 ・一人称で書かれた小説の特徴をつかむ。	12	・現代小説の読解のしかたを習得する。 ・主人公の過去と、現在おかれた状況について整理し、その行動とのつながりを読み取る。 ・それぞれの場面における登場人物の言葉、行動から、その心情を読み取る。
6	評論 「新しい地球観」 「イリュージョンなしに世界は見えない」	・随想的要素を持つ評論の読み方を習得する。 ・論理的な文章の読み方を習得する。	12	・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得する。 ・様々な地図が形作る「世界の見方」について考える。 ・論理的な文章の読み方を習得する。 ・筆者が考える「イリュージョン」とはどのようなものかを理解し、その重要性について考える。
7	詩 「そこにひとつの席が」 「この世」 「永訣の朝」	・詩の基本的な鑑賞のしかたを習得する。 ・詩にこめられた作者の思いを読み取り、言語に対する感性を磨く。	12	・現代詩・近代詩の鑑賞のしかたを習得する。 ・詩にこめられた情景や心情を読み取る。 ・作品の主題をまとめる。 ・擬人法の効果、視点の逆転について理解する。
8	評論 「情けは人の…」 「マジ？」	・筆者の言葉に対するこだわりや愛着を理解する。 ・具体的な言葉の意味の変遷を通して、言語の歴史について考える。	12	・随想的な要素を持つ評論の読み方を習得できたか。 ・ことわざの誤用が生じる要因を読み取ることができる。  ・「マジ」という言葉の「語誌」を例として、言葉の意味の変遷・言葉の歴史について理解している。
9	小説 「相棒」 「ナイン」	・登場人物の性格・心理・行動を読み取る。 ・語り手の存在を意識し、全体構成をつかむ。	12	・題名にこめられた意味について考えられる。  ・作品の主題を理解し、人や人生に対する見方を深られている。
10	言語活動 「創作の楽しみ・短歌と俳句」	・短歌と俳句の違いについて、認識を深める。	12	・短歌・俳句特有の修辞やリズムについて学び、その効果について理解している。
11	評論 「個人研究と科学」 「僕らの時代のメディア・リテラシー」	・趣味について、「個人研究」という観点からその広がりを考える。 ・メディアについて理解し、情報を的確に取捨選択する姿勢を養う。	9	・筆者が「個人研究」にどのような価値や意義を見いだしているかを理解している。 ・メディアの「切り上げ」「切り下げ」について理解する。 ・メディアを見る姿勢について、身近な番組などを例にして考える。
12	小説 「鼻」	・近代の小説を読んで、読解力を養う。	12	・近代の代表的な短編小説を読解できる。 ・内供の人物像や心情の変化を読み取れる。
1	小説 「ころも」	・長編小説を読んで、読解力を養う。	9	・近代の代表的な長編小説を読解できる。 ・登場人物の性格・心理・行動を読み取り、その変化をつかむことができる。

教科名	国語	科目名	古典A	単位数	2単位
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。</p>				
学習内容の概要	<p>① 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。</p> <p>② 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</p> <p>③ 古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関連について理解する。</p> <p>④ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究し、我が国の伝統と文化について理解を深める。</p> <p>⑤ 日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>* 観点は以下の5点            ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法（以下を考慮し総合的に行う。）            ① 小テスト・定期考査の成績            ② 出席，授業態度            ③ 課題提出            ④ ノート作成</p>				
学習方法	<p>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、原文をノートに写し、難解な語句については、辞書で意味を調べておく。</p> <p>② 授業では、キーワードに注目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</p> <p>③ 単元の終わりには、学習課題ノートを使って理解を深める。</p>				
教科書・教材等	<p>『標準 古典A』 第一学習社            『標準 古典A 学習課題ノート』 第一学習社            『古典文法クリアノート』 文英堂            古語辞典，漢和辞典</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文『十訓抄』 ・文字一つの返し 『古今著聞集』 ・小式部内侍…	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	6	・古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。
5	『竹取物語』 ・火鼠の皮衣 ・かぐや姫の昇天	・昔話としてなじみのある作品を読んで、古文に親しむ。	8	・登場人物の行動や心情を的確に把握し、理解することができる。
6	漢文 故事・寓話 ・助長 ・画竜点睛	・故事や寓話にこめられた古代中国人のものの見方、考え方を味わう。	8	・訓点に従って正しく書下し文に改めることができる。 ・故事成語の意味を理解する。
7,8	三国志の世界 ・水魚之交 ・赤壁之戦	・漢文に親しみを持ち、話の内容を理解する。 ・魏、呉、蜀三国の興亡についての概要を知る。	8	・魏、呉、蜀三国の関係やそれぞれの登場人物の関係を正しく理解することができる。
9	・死諸葛走生仲達	・歴史の中の人間について考える。	8	・中国における歴史書と歴史の記録について、その特徴を知る。
10	古文 『伊勢物語』 ・初冠 ・通い路の関守 ・小野の雪	・歌物語における和歌の役割を理解する。 ・助動詞について学ぶ。	8	・歌物語における和歌の役割や修辞について理解できる。 ・助動詞を理解しようと努めることができる。
11	『徒然草』 ・公世の二位のせうとに ・よるずのことは頼むべからず	・優れた表現を読み味わう。 ・日本文化と中国文化の関係について考える。 ・助動詞について理解する。	8	・作者の思想や感情を読み取ることができる。 ・人間、社会などについて考察しようとする姿勢がみられる。
12	漢文 漢詩の鑑賞 近代詩	・漢詩のきまりを理解する。 ・詩に表現された作者の心情を、そのときの作者の境遇と合わせて理解する。	6 6	・近代詩の詩形、押韻、構成、対句について理解する。
2	古文		8	
3	『平家物語』 ・忠度の都落ち ・能登殿の最期	・軍記物語の構成や展開を把握し、中世の敬語や語彙に慣れ親しむ。	6	・表現上の特色を理解し、優れた表現を味わうことができる。

教科名	国語	科目名	古典A	単位数	2単位
対象学年	第2学年(生活教養科)		履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 古典などに表れた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。</li> <li>② 古典特有の表現を味わったり、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。</li> <li>③ 古典などを読んで、言語文化の特質や我が国の文化と中国の文化との関連について理解する。</li> <li>④ 伝統的な言語文化についての課題を設定し、様々な資料を読んで探究し、我が国の伝統と文化について理解を深める。</li> <li>⑤ 日常の言語生活の中から我が国の伝統と文化に関連する表現を集め、その意味や特色、由来などについて調べたことを報告する。</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>* 観点は以下の5点 ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法(以下を考慮し総合的に行う。) ① 小テスト・定期考査の成績 ② 出席, 授業態度 ③ 課題提出 ④ ノート作成</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 家庭学習では、教科書をしっかり読み、原文をノートに写し、難解な語句については、辞書で意味を調べておく。</li> <li>② 授業では、キーワードに注目し、本文の流れが分かるようにノートをまとめる。</li> <li>③ 単元の終わりには、学習課題ノートを使って理解を深める。</li> </ul>				
教科書・教材等	『標準 古典A』 第一学習社 『標準 古典A 学習課題ノート』 第一学習社 『古典文法クリアノート』 文英堂 古語辞典, 漢和辞典				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文『十訓抄』 ・文字一つの返し 『古今著聞集』 ・小式部内侍…	・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。	6	・古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解する。
5	『竹取物語』 ・火鼠の皮衣 ・かぐや姫の昇天	・昔話としてなじみのある作品を読んで、古文に親しむ。	8	・登場人物の行動や心情を的確に把握し、理解することができる。
6	漢文 故事・寓話 ・助長 ・画竜点睛	・故事や寓話にこめられた古代中国人のものの見方、考え方を味わう。	8	・訓点に従って正しく書下し文に改めることができる。 ・故事成語の意味を理解する。
7,8	三国志の世界 ・水魚之交 ・赤壁之戦	・漢文に親しみを持ち、話の内容を理解する。 ・魏、呉、蜀三国の興亡についての概要を知る。	8	・魏、呉、蜀三国の関係やそれぞれの登場人物の関係を正しく理解することができる。
9	・死諸葛走生仲達	・歴史の中の人間について考える。	8	・中国における歴史書と歴史の記録について、その特徴を知る。
10	古文 『伊勢物語』 ・初冠 ・通い路の関守 ・小野の雪	・歌物語における和歌の役割を理解する。 ・助動詞について学ぶ。	8	・歌物語における和歌の役割や修辞について理解できる。 ・助動詞を理解しようと努めることができる。
11	『徒然草』 ・公世の二位のせうとに ・よるずのことは頼むべからず	・優れた表現を読み味わう。 ・日本文化と中国文化の関係について考える。 ・助動詞について理解する。	8	・作者の思想や感情を読み取ることができる。 ・人間、社会などについて考察しようとする姿勢がみられる。
12	漢文 漢詩の鑑賞 近代詩	・漢詩のきまりを理解する。 ・詩に表現された作者の心情を、そのときの作者の境遇と合わせて理解する。	6 6	・近代詩の詩形、押韻、構成、対句について理解する。
2	古文		8	
3	『平家物語』 ・忠度の都落ち ・能登殿の最期	・軍記物語の構成や展開を把握し、中世の敬語や語彙に慣れ親しむ。	6	・表現上の特色を理解し、優れた表現を味わうことができる。

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文・漢文を読解し鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。</li> <li>② 文章の構成や展開に即して、主題や要旨を的確に捉える。</li> <li>③ 作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を理解し、ものの見方、感じ方、考え方などを豊かにする。</li> <li>④ 文章の表現上の特色を理解し、優れた表現を味わう。</li> <li>⑤ 音読・朗読・暗唱などを通して古典の文章に親しみ、作品の読解、鑑賞を深める。</li> <li>⑥ 古典を読んで、日本文化の特筆や日本文化と中国文化の関係について考える。</li> <li>⑦ 大学入試に向けて問題演習を行う。</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>*観点は以下の5点 ①関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解（テスト）</p> <p>*評価方法（以下を考慮し総合的に行う。） ①小テスト・定期考査 ②出席状況・授業態度 ③課題提出 ④ノート作成</p>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>①予習は原文をノートに写し、現代語訳する。（難解語句は辞書で調べる。）</li> <li>②授業では、自分の現代語訳との対比をして、重要箇所をしっかりと理解する。さらに説明の要点をノートにまとめる。</li> <li>③復習は文法事項を確認し、暗記する。学習課題ノート（副教材）を用いて内容を整理する。</li> </ul>				
教科書・教材等	『古典B 古文編』・『古典B 漢文編』（教育出版） 『精選古典 古文 学習課題ノート』・『精選古典 漢文 学習課題ノート』 『クリアカラー国語便覧（数研出版）』・『古典文法クリアノート』（文英堂） 『漢文重要語マスターノート』数研出版・『古文単語マスター333』数研出版 『古語辞典』『漢和辞典』				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	古文 文法1～4	・用言・助動詞についての文法について学ぶ。	6	・用言・助動詞について理解する。
5	説話 ・十訓抄 ・宇治拾遺物語	・古文の内容や構成、また作品の背後を支える貴族の教養や社会情勢等について学ぶ。	8	・比較的理解しやすい鎌倉時代の文章を読み、古文の特性に慣れ、中世の人々の生活ぶりや価値観を理解する。 ・基本的な語句や助詞、助動詞について理解する。
6	随筆 ・徒然草 ・方丈記	・登場人物の人物像を把握する。 ・助動詞等文法について学ぶ。	8	
7	漢文	・中国の各時代の歴史を把握する。	8	
8	逸話 ・梁上君子 ・王昭君 ・鄧哀王曹沖	・語句の意味や文の構造を学ぶ。 ・使役、部分否定、受身等の句型を学ぶ。	8	・各時代の中国の状況を理解する。 ・訓読が正確にできる。 ・使役や部分否定等の句法を理解する。
9	史伝（史記） ・四面楚歌	・物語の展開に即して正しく口語訳する。	8	・訓読が正確にできる。 ・疑問・反語・詠嘆の句法を理解する。
10	古文 ・枕草子	・内容や構成、貴族の教養や社会情勢等について学ぶ。 ・敬語や助動詞等について学ぶ。	8	・平安朝の貴族の生活について関心を持つ。 ・清少納言等登場人物について理解を深める。 ・敬語と助動詞について理解する。
11	・伊勢物語	・文学史上の要点を学ぶ。 ・登場人物と場面状況を的確に捉える。	8	・『伊勢物語』の文学的特質を理解する。 ・各段の内容を的確に捉える。 ・登場人物の人物像と心情を理解する。
12	・源氏物語	・平安朝の宮中での女性たちについて学ぶ。 ・紫式部と『源氏物語』の文学史上の要点を学ぶ。	6	・平安朝の貴族の女性たちの地位や立場について理解する。 ・紫式部と『源氏物語』について理解し、『源氏物語』に親しむ。 ・敬語表現について理解する。
1	漢文 ・詩	・漢詩の形式・句型を学び、内容を把握する。	6	・語句の意味や句型、表現技法をを理解し、正しく口語訳する。
2	総合演習	・これまでの学習の復習を行う。	14.	・実際の演習問題を行い、これまでの学習を復習・確認する。
3				

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（普通科進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文・漢文を読解し、鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、人生を豊かにする態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>① 第2学年の学習を継続する。</p> <p>② 古文及び漢文を読解し鑑賞するため、読み、語句、文法、表現上の特色を理解する。</p> <p>③ 古典に親しみ、思想、感情、有職故実を通して、ものの見方、感じ方を豊かにし、日本文化や中国文化との関係を考える。</p> <p>④ 生徒の関心や学習意欲を喚起させる教材を選択し、場合によって副教材を用意する。入学試験や就職試験などに向けて問題演習を行う</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>* 観点は以下の5点 ① 関心・意欲・態度 ②読む力 ③書く力 ④話す力 ⑤知識・理解度(テスト)</p> <p>* 評価方法（以下を考慮し総合的に行う。） ① 小テスト・定期考査の成績 ② 出席、授業態度 ③ 課題提出 ④ ノート作成</p>				
学習方法	<p>○予習 ・原文をノートに写し、難解語句を辞書で調べて現代語訳する。 ・音読を繰り返す。</p> <p>○授業 ・自分の現代語訳と対比し、重要箇所を理解する。 ・説明の要点をノートに書く。</p> <p>○復習 ・文法事項はまず理解し、次に暗記する。 ・興味関心のある点を調べてみる。</p>				
教科書・教材等	<p>『精選古典B』 三省堂 『精選古典B 学習課題ノート』三省堂 『古典文法クリアノート』文英堂 古語辞典、漢和辞典</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	清少納言「枕草子」	・筆者の美意識やものの見方を読み、当時の宮廷生活も理解する。	9	・内容を踏まえて筆者の考え方や当時の宮廷生活を理解しようとしている。 ・筆者の美意識や機知を読み取っている。
5	「三国志」の世界	・話の内容を的確に読み、登場人物の心情・人間像を読み比べる。	12	・それぞれの場面に描かれた人間像を読み比べようとしている。
6	紫式部「源氏物語」	・登場人物の心情を読み取るとり、『源氏物語』への理解を深める。	12	・登場人物の言動や心理を的確に読み取っている。 ・物語の内容を理解するとともに、『源氏物語』をより深く知ろうとしている。
7	漢詩（古体詩）	・漢詩の構成などについて理解する。	12	・登場人物の心情を場面に応じて読み取っている。 ・漢詩に描かれた人物や情景・心情などを表現に即して味わおうとしている。
8	藤原道綱母「蜻蛉日記」	・作者の生活や心情を読み取るとともに、当時の社会制度を理解する。	12	・作者の生活や心情を読み取るとともに、平安女流日記文学の特徴を理解しようとしている。 ・贈答歌を通して男女の心情を読み取るとともに、表現上の特徴を理解しようとしている。
9	和泉式部「和泉式部日記」 紫式部「紫式部日記」	・贈答歌を通して男女の心情を読み、表現上の特徴を理解する。 ・作者のものの感じ方や洞察力を読み取り、その心情を理解する。	12	・比喩表現に気をつけ、作者の心情を理解している。 ・風景や人物に対する作者の感じ方や洞察力を理解しようとしている。
10	李復言「杜子春伝」 「大鏡」	・話の展開を整理し、日本の近代文学と読み比べる。 ・歴史物語の特徴と文学史的意義の理解。	12	・作者のものの感じ方を通して、心情を理解している。 ・登場人物の言動や心理などを的確に読み取り、杜子春の人間性を理解している。 ・基本的な句法・語法を理解している。 ・登場人物の境遇を読み取るとともに、歴史物語の特徴を理解しようとしている。
11	司馬遷「史記」	・歌論を読み、筆者の和歌に対する感じ方や考え方を理解する。	12	・著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとしている。 ・和歌に対する筆者の感じ方や考え方を理解しようとしている。
12	紀貫之「古今和歌集 仮名序」	・「おもて歌」についての考え方を読み取り、和歌を鑑賞する。 ・筆者の論旨を的確に理解する。	9	・筆者の主張を的確に読み取っている。 ・「おもて歌」についての考え方を理解しようとしている。 ・和歌を鑑賞し、俊恵の主張を読み取っている。
1	鴨長明「無名抄」	・情景や叙情の描写の美しさを味わい、作者の人生観を理解する。	9	・この文章を書いた意図を理解しようとしている。 ・筆者が考える幸福と政治の本質を読み取っている。
2	柳宗元「捕蛇者説」	・近世小説の話の展開を理解し、人間の生き方について考えを深める。 ・日本文化と中国文化の関係について考える。	12	・唐宋八大家について理解している。 ・この文章に見られる作者の人生観を理解しようとしている。
3	上田秋成「雨月物語」		9	・作品の読解を通して、人間の生き方について考えようとしている。
	白居易「長恨歌」			・作者の詩情を読み味わおうとしている。 ・男女の愛の浪漫性と永遠性を読み取っている。 ・「長恨歌」の文学史的意義を理解している。

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第2学年(進学・総合)		履修形態	必修	
科目の目標	<p>○世界史は決して「よその国の話」で終わるものではなく、日本とも密接に関わっていることを学ぶ。</p> <p>○世界史は、一つの地域や一つの国の歴史を追っているようにみえても、他の地域や国々のできごとと密接に関連していたり、過去と現在が不可分につながっていることを知る。</p> <p>○世界史を「点」で理解するのではなく、「線」や「面」でとらえ、地域や民族の有機的なつながりを理解し、歴史を学ぶおもしろさを理解する。</p>				
学習内容の概要	<p>第1編 世界史へのいざない 自然環境と歴史 日本列島のなかの世界の歴史</p> <p>第2編 世界の一体化と日本 ユーラシアの諸文明 結びつく世界と近世の日本 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 アジア諸国の変貌と近代の日本</p> <p>第3編 地球社会と日本 帝国主義の時代 急変する人類社会 世界戦争と平和 三つの世界と日本の動向 地球社会への歩みと課題 持続可能な社会への展望</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ②知識・理解 ③資料活用能力など</p> <p>以上の項目について、定期テスト、出欠状況・学習態度、ノート点検・単元ごとのプリント・小テスト、長期休暇などを利用したレポート提出等を用い、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>○授業をしっかりと聞き、教科書や授業時のノートを使って復習しよう。</p> <p>○基本的事項をおさえながら、歴史的な出来事にはどんな背景があるか考えてみよう。</p> <p>○歴史の見方はひとつではない。常に多角的にとらえるようにしよう。</p> <p>○ノートをとる時には、板書事項だけでなく、気づいたことや教師の話をメモするようにしよう。</p> <p>○毎日のニュースに触れ、社会や世界に関心を持とう。あなたも世界のひとりです。</p>				
教科書・教材等	<p>○教科書「高等学校世界史A」(第一学習社) プリント 副教材『世界史Aノート』(第一学習社)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1編 世界史へのいざない	①自然環境と歴史	6	○地理との関連により歴史に対する関心を高め、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることについて考察する。 ○日本の歴史と世界の歴史とのつながりを理解する。
5	第2編 世界の一体化と日本	①ユーラシアの諸文明	8	・東アジア ・南アジア ・東南アジア ・西アジア ・ヨーロッパ ・アフリカ ・アメリカ
6			8	・ユーラシアの海の交流 ・ユーラシアの陸の交流
7		②結びつく世界と近世の日本	8	○14世紀から18世紀にかけての陸と海の動向について関心を高め、アジア諸地域の特質とその中での日本の位置づけを理解する。
8			8	○イギリスの産業革命の背景を世界史的視野からとらえ、産業革命の結果、資本主義経済が確立したことを理解する。
9		③ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	8	○ウィーン体制下での自由主義・国民主義の運動について関心を高め、その歴史的意義を考察する。
10			8	○アジアでの国際分業体制の形成について、近代世界システム論の観点から追究し、19世紀の世界の一体化とその特質を考察する。
11	第3編 地球社会と日本	①帝国主義の時代	8	○帝国主義列強の世界政策によって世界がどのように変容したかを追究する。
12		②急変する人類社会	6	○19世紀末から20世紀初頭にかけての社会の急激な変化について現代の社会と関連付けながら考察する。
1		③世界戦争と平和	6	○二つの世界大戦の原因や経過、さらにはその結果について多角的に考察し、世界戦争の性格や意味を理解する。
2		④三つの世界と日本の動向	6	○東西冷戦・第三世界の台頭など、1970年頃までの世界の政治・経済の動向を考察する。
3		⑤地球社会への歩みと課題	8	○1970年代以降の東欧諸国の民主化・ソ連の社会主義体制崩壊など、その歴史的意義を多角的に考察し、現代社会の問題点を把握する。
		⑥持続可能な社会への展望	6	○現代社会の特質や課題について自ら課題を設定し、主体的な探究を通して、歴史的視野から持続可能な社会の実現について展望する。 *時数の関係で、割愛する单元もある。

教科名	地理歴史科	科目名	日本史A	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、社会性を身に付け、国際社会に生きる日本人としての資質を養う。				
学習内容の概要	<p>第1部 日本のあゆみをふりかえろう</p> <p>(1) 日本の成り立ち (2) 古代の日本 ①飛鳥時代 ②奈良時代 ③平安時代</p> <p>(3) 中世の日本 ①鎌倉時代 ②室町時代</p> <p>(4) 近世の日本 ①安土・桃山時代 ②江戸時代前期 ③江戸時代中期</p> <p>第2部 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>第1節 近代への胎動</p> <p>第2節 明治維新</p> <p>第3節 近代国家の確立</p> <p>第4節 対外関係の変化 第5節 政党政治の展開</p> <p>第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>第1節 近代産業の発展と社会運動の展開</p> <p>第2節 国民生活の変化と文化</p> <p>第3節 第一次世界大戦と日本</p> <p>第4節 第二次世界大戦と日本</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度…近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。</p> <p>②思考・判断…近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。</p> <p>③資料活用技能・表現…近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現する。</p> <p>④知識・理解…近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>以上のような観点について、定期考査、出欠状況、学習態度、ノート提出の状況等を考慮して、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>①授業をしっかりと聴き、教科書やノートを利用して復習する。</p> <p>②一面的な理解にならないよう、多面的に考察する。</p> <p>③日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。</p>				
教科書・教材等	<p>○「高等学校 日本史A 人・くらし・未来」(日A 304) 第一学習社</p> <p>○プリント</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1部 私たちに時代と歴史	私たちの時代	6	・自分が生まれてから経験してきた出来事をふり返る
5	日本のあゆみをふりかえろう	日本の古代 中世の日本 近世の日本	8	・それぞれの時代の主権がどこにあったかを意識しながら、中央集権体制から、貴族社会、武家社会への変遷をながめる。
6	第2部 近代の日本と世界	第1節 近代への胎動	8	・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。
7	第1章 近代日本の形成と国際関係の推移	第2節 明治維新	6	・開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。
8		第3節 近代国家の確立	10	・廃藩置県や封建的身分制度の撤廃など、明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。
9		第4節 対外関係の変化		・幕末から明治初期の欧米への使節・留学生の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。
10		第5節 政党政治の展開	8	・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。
11	第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢	第1節 近代産業の発展と社会運動の展開	8	・資本主義の発展によって産業構造が変化し、これにともない、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。
12		第2節 国民生活の変化と文化	6	・国民統制において、教育政策や国家主義的思想の果たした役割について理解する。
1		第3節 第一次世界大戦と日本	6	・第一次世界大戦が、日本に与えた経済的な影響について理解する。 ・大正期には、第一次世界大戦を通して世界的な民主主義の風潮が高まり、さらに資本主義の発展にともなう産業構造の変化を背景として、さまざまな社会運動が活発になったことを理解する。
2		第4節 第二次世界大戦と日本	8	・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。
3			6	・日本がアジア諸国に対して与えた影響について理解する。

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	4単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>日本という国の政治、社会、文化などは、どのような経緯で現在の形を作りあげてきたのか。この答えを考えると、当然であるが日本の歴史を学習しなければならない。</p> <p>日本史Bという科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててほしい。</p>				
学習内容の概要	<p>①旧石器文化から縄文文化へと進んだ日本列島の文化が、中国や朝鮮半島から、農耕をはじめとする多くの文化の影響を受け、国家を形成する過程を学ぶ。</p> <p>②律令国家としての発展と、平城京の成立、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、国家仏教の発展や天平文化を理解する。</p> <p>③律令国家の支配領域が一段と拡大する過程や地方政治の変容、摂関政治と国風美術、貴族の生活について理解する。</p> <p>④支配層であった貴族が、各地に成長してきた武士によってその地位をおびやかされるまでを学ぶ。</p> <p>⑤武家政権を確立した源頼朝の後を継いだ北条氏が、承久の乱で朝幕関係を逆転させながら、元寇という対外問題で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。また、政権変動や末法思想などによって当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。</p> <p>⑥足利政権の成立・発展や、産業の発達などにより民衆が社会を動かす力をつけてきたことを考察する。また、明・朝鮮・琉球・蝦夷地などとの関係や、建築や茶華道のように、日本の伝統文化の基礎となった時代であることを学ぶ。</p> <p>⑦ヨーロッパ人がもたらした鉄砲とキリスト教によって、戦国の世の統一が促進され、鎖国を外交の基本とする徳川政権が展開されたこと、その封建支配や庶民文化の進展を学ぶ。</p> <p>⑧江戸幕府の財政難（内圧）に対する幕政改革や、列強の接近（外圧）に対する対応がいずれもうまくいかず、崩壊していく過程を学ぶ。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢</p> <p>提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜）</p> <p>定期試験（学習理解度）</p> <p>などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>日本史は暗記科目であるが、羅列してある用語を単に覚えるのではなく、いつも「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考えつつ理解したい。</p> <p>そのために、時代ごとの全体像—いくつかの項目の相関関係図—を板書するので、きちんとノートし、それぞれの時代の特徴や構造をつかむようにしてほしい。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。このような入試に際しても、上記のノートは有効に働くはずであり、活用してほしい。</p> <p>さらに、入試では、答えを様々な角度から求められる。より多くの問題に取り組むことによって入試対応力を養いたい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「詳説日本史 改訂版」（山川出版社）</p> <p>プリント</p> <p>副教材 Winning COM.-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本文化のあけぼの	①文化の始まり	12	○日本列島における旧石器文化、縄文文化の時代の社会を理解する
5	律令国家の形成	②農耕社会の成立	16	○弥生文化の成立と、中国歴史書にみるわが国の小国分立の状況を考察する。
		③古墳とヤマト政権		○大陸の文化の受容とヤマト政権の政治制度について理解する。
		①飛鳥の朝廷		○東アジアの動向と、飛鳥の朝廷と文化、大化の改新を契機に律令国家として発展する様子を学ぶ。
6		②律令国家への道	16	○平城京の成立と、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、藤原氏を中心とした政権抗争を理解する。
		③平城京の時代		○国家仏教の発展と天平文化を理解する。
7		④天平文化	16	○造作と軍事によって、律令国家の支配領域が一段と拡大する過程と、地方政治の変容、密教芸術などを学ぶ。
		⑤平安朝廷		○藤原北家の発展と摂関政治、国風芸術、貴族の生活などについて理解する。
8	貴族政治と国風文化	①摂関政治	16	○荘園の発達や、源平を中心とした武士の成長を学ぶ。
②国風文化		○源平の争乱と幕府成立の過程を理解する。		
9		③地方政治の展開と武士	16	○源頼朝の死後、北条氏が他氏を排斥ながら執権政治を確立した過程を理解する。
10		中世社会の成立		①院政と平氏の台頭
11		②鎌倉幕府の成立	16	○政権変動や末法思想などで当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。
12		③武士の社会		○足利政権の成立・発展や、民衆が社会を動かす様子、明・朝鮮半島などとの関係や、現代につながる北山・東山文化の特色を学ぶ。
1	武家社会の成長	④蒙古襲来と幕府の衰退	12	
2	幕藩体制の確立	⑤鎌倉文化	16	○織田信長や豊臣秀吉が天下を統一する過程やその政策、南蛮の影響を受けた文化を学ぶ。
		①室町幕府の成立		○徳川政権の機構やその封建政策、初期の積極的外交から鎖国へ転換する過程を学ぶ。
3	幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺	②幕府の衰退と庶民の台頭	12	○元禄期を中心とする安定期の政策、諸産業の発展や交通の発達、元禄文化を学ぶ。
		③室町文化		○社会の変化、列強の接近と幕府の衰退、多様化した都市文化について理解する。
		④戦国大名の登場		
		①織豊政権		
		②桃山文化		
		③幕藩体制の成立		
		①幕政の安定		
		②経済の発展		
		③元禄文化		
		①幕政の改革		
		②幕政の衰退		
		③化政文化		

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	4単位
対象学年	第2学年（普通科進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>日本史Bという科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。</p> <p>今年度と来年度にわたって日本史Bを学ぶが、今年度は、「原始・古代」と「中世」の室町文化までをあつかう。狩猟・採集の原始的生活から、食料を生産する社会に変わり貧富の差や階級が生まれたこと。唐の影響を受けた律令国家の建設や「日本」の領域拡大、貴族政治の展開と武士が台頭してくる社会の様子や、武士が貴族に代わって政権を握り、源氏・平氏がそれぞれ武家社会を確立する経緯を学ぶ。また、政権と外交問題、外国文化の影響なども関連づけながら、社会や文化がどう発展したのかを考察する。</p>				
学習内容の概要	<p>①旧石器文化から縄文文化へと進んだ日本列島の文化が、中国や朝鮮半島から、農耕をはじめとする多くの文化の影響を受け、国家を形成する過程を学ぶ。</p> <p>②律令国家としての発展と、平城京の成立、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、国家仏教の発展や天平文化を理解する。</p> <p>③律令国家の支配領域が一段と拡大する過程や地方政治の変容、摂関政治と国風美術、貴族の生活について理解する。</p> <p>④支配層であった貴族が、各地に成長してきた武士によってその地位をおびやかされるまでを学ぶ。</p> <p>⑤武家政権を確立した源頼朝の後を継いだ北条氏が、承久の乱で朝幕関係を逆転させながら、元寇という対外問題で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。また、政権変動や末法思想などによって当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。</p> <p>⑥足利政権の成立・発展や、産業の発達などにより民衆が社会を動かす力をつけてきたことを考察する。また、明・朝鮮・琉球・蝦夷地などとの関係や、建築や茶華道のように、日本の伝統文化の基礎となった時代であることを学ぶ。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢 提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜） 定期試験（学習理解度） などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>日本史は暗記科目であるが、羅列してある用語を単に覚えるのではなく、いつも「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考えつつ理解したい。</p> <p>そのために、時代ごとの全体像—いくつかの項目の相関関係図—を板書するので、きちんとノートし、それぞれの時代の特徴や構造をつかむようにして欲しい。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。このような入試に際しても、上記のノートは有効に働くはずであり、活用して欲しい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「詳説日本史 改訂版」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本文化のあけぼの  律令国家の形成  貴族政治と国風文化  中世社会の成立  武家社会の成長	①文化の始まり	12	○日本列島における旧石器文化、縄文文化の時代の社会を理解する ○弥生文化の成立と、中国歴史書にみるわが国の小国分立の状況を考察する。 ○大陸の文化の受容とヤマト政権の政治制度について理解する。 ○東アジアの動向と、飛鳥の朝廷と文化、大化の改新を契機に律令国家として発展する様子を学ぶ。 ○平城京の成立と、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、藤原氏を中心とした政権抗争を理解する。 ○国家仏教の発展と天平文化を理解する。 ○造作と軍事によって、律令国家の支配領域が一段と拡大する過程と、地方政治の変容、密教芸術などを学ぶ。 ○藤原北家の発展と摂関政治、国風芸術、貴族の生活などについて理解する。 ○荘園の発達や、源平を中心とした武士の成長を学ぶ。 ○院政と平氏政権、院政期の文化を学ぶ。 ○源平の争乱と幕府成立の過程を理解する。 ○源頼朝の死後、北条氏が他氏を排斥ながら執権政治を確立した過程を理解する。 ○北条氏が、元寇で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。 ○政権変動や末法思想などで当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。 ○足利政権の成立・発展や、民衆が社会を動かす様子、明・朝鮮半島などとの関係や、現代につながる北山・東山文化の特色を学ぶ。
5		②農耕社会の成立	16	
6		③古墳とヤマト政権		
7		①飛鳥の朝廷	16	
8		②律令国家への道		
9		③平城京の時代	16	
10		④天平文化		
11		⑤平安朝廷	16	
12		①摂関政治		
1		②国風文化	16	
2		③地方政治の展開と武士		
3		①院政と平氏の台頭	16	
4	②鎌倉幕府の成立			
5	③武士の社会	12		
6	④蒙古襲来と幕府の衰退			
7	⑤鎌倉文化	16		
8	①室町幕府の成立			
9	②幕府の衰退と庶民の台頭	12		
10	③室町文化			
11	次年度に継続			

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（普通科総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>日本史Bという科目は、わが国の歴史の展開を政治・経済・社会など、歴史を構成する要素を世界史的視野に立って把握させると同時に、わが国の文化がどのような特色を持ち、どのような伝統が形成されてきたかの認識を深めることを目的としている。</p> <p>また、諸事象の本質を、実証的にとらえる歴史的思考力を身につけることによって、個人として良く生きることや、国際社会に生きる人間としての資質を養うことをめざしている。歴史を十分に理解し過去の過ちや問題の解決方法を認識することによって、自分自身の未来を考える基礎とし、良識ある人間として必要な意識・能力を育ててもらいたい。</p> <p>今年度と来年度にわたって日本史Bを学ぶが、今年度は、「原始・古代」と「中世」の室町文化までをあつかう。狩猟・採集の原始的生活から、食料を生産する社会に変わり貧富の差や階級が生まれたこと。唐の影響を受けた律令国家の建設や「日本」の領域拡大、貴族政治の展開と武士が台頭してくる社会の様子や、武士が貴族に代わって政権を握り、源氏・平氏がそれぞれ武家社会を確立する経緯を学ぶ。また、政権と外交問題、外国文化の影響なども関連づけながら、社会や文化がどう発展したのかを考察する。</p>				
学習内容の概要	<p>①旧石器文化から縄文文化へと進んだ日本列島の文化が、中国や朝鮮半島から、農耕をはじめとする多くの文化の影響を受け、国家を形成する過程を学ぶ。</p> <p>②律令国家としての発展と、平城京の成立、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、国家仏教の発展や天平文化を理解する。</p> <p>③律令国家の支配領域が一段と拡大する過程や地方政治の変容、摂関政治と国風美術、貴族の生活について理解する。</p> <p>④支配層であった貴族が、各地に成長してきた武士によってその地位をおびやかされるまでを学ぶ。</p> <p>⑤武家政権を確立した源頼朝の後を継いだ北条氏が、承久の乱で朝幕関係を逆転させながら、元寇という対外問題で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。また、政権変動や末法思想などによって当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。</p> <p>⑥足利政権の成立・発展や、産業の発達などにより民衆が社会を動かす力をつけてきたことを考察する。また、明・朝鮮・琉球・蝦夷地などとの関係や、建築や茶華道のように、日本の伝統文化の基礎となった時代であることを学ぶ。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>出席状況や授業中の態度 科目に対する主体的な姿勢 提出物（ノート・授業配布プリント等） 小テスト（適宜） 定期試験（学習理解度） などを活用し、総合的に判断する。</p>				
学習方法	<p>日本史は暗記科目であるが、羅列してある用語を単に覚えるのではなく、いつも「なぜこの事件が起こったのか」を念頭に置き、物事の因果関係を考えつつ理解したい。</p> <p>そのために、時代ごとの全体像—いくつかの項目の相関関係図—を板書するので、きちんとノートし、それぞれの時代の特徴や構造をつかむようにして欲しい。</p> <p>大学入試では、時代を超えたテーマ史が配置され、また、近・現代史の出題が増える傾向にある。このような入試に際しても、上記のノートは有効に働くはずであり、活用して欲しい。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書「詳説日本史 改訂版」（山川出版社） プリント 副教材 Winning COM-PASS 日本史の整理と演習（とうほう）</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	日本文化のあけぼの  律令国家の形成  貴族政治と国風文化  中世社会の成立  武家社会の成長	①文化の始まり	9	○日本列島における旧石器文化、縄文文化の時代の社会を理解する ○弥生文化の成立と、中国歴史書にみるわが国の小国分立の状況を考察する。 ○大陸の文化の受容とヤマト政権の政治制度について理解する。 ○東アジアの動向と、飛鳥の朝廷と文化、大化の改新を契機に律令国家として発展する様子を学ぶ。 ○平城京の成立と、軍事的制圧によって支配領域が拡大する過程、藤原氏を中心とした政権抗争を理解する。 ○国家仏教の発展と天平文化を理解する。 ○造作と軍事によって、律令国家の支配領域が一段と拡大する過程と、地方政治の変容、密教芸術などを学ぶ。 ○藤原北家の発展と摂関政治、国風芸術、貴族の生活などについて理解する。 ○荘園の発達や、源平を中心とした武士の成長を学ぶ。 ○院政と平氏政権、院政期の文化を学ぶ。 ○源平の争乱と幕府成立の過程を理解する。 ○源頼朝の死後、北条氏が他氏を排斥ながら執権政治を確立した過程を理解する。 ○北条氏が、元寇で御家人の信頼を失い内部から崩壊していく過程を理解する。 ○政権変動や末法思想などで当時の人々に精神的変化があったことを、鎌倉仏教の成立を通して考察する。 ○足利政権の成立・発展や、民衆が社会を動かす様子、明・朝鮮半島などとの関係や、現代につながる北山・東山文化の特色を学ぶ。
5		②農耕社会の成立	12	
6		③古墳とヤマト政権		
7		①飛鳥の朝廷	12	
8		②律令国家への道		
9		③平城京の時代	12	
10		④天平文化		
11		⑤平安朝廷	12	
12		①摂関政治		
1		②国風文化	12	
2		③地方政治の展開と武士		
3		①院政と平氏の台頭	12	
4	②鎌倉幕府の成立			
5	③武士の社会	9		
6	④蒙古襲来と幕府の衰退			
7	⑤鎌倉文化	9		
8	①室町幕府の成立			
9	②幕府の衰退と庶民の台頭	12		
10	③室町文化			
11	次年度に継続	9		

教科名	公民	科目名	現代社会演習	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1 現代社会の諸問題について、政治・経済・社会・文化・倫理などさまざまな観点から探求し、時事的な問題を切り口に興味関心を高める。</p> <p>2 資料の収集方法や活用の仕方、レポートのまとめかた、メディアやネットの利用方法など学び方（スキル）を身につける。</p> <p>3 現代社会について多角的観点から考察させるとともに、現代社会と自己との関わりに注目し、いかに生きるかを主体的に考える。</p>				
学習内容の概要	<p>経済のしくみについて学び、日本と世界の諸問題を自らの課題としてとらえ考察する。</p> <p>①市場経済のしくみ</p> <p>②豊かな社会の実現をめざして（国内経済）</p> <p>③国際経済の動向と貧困の解消（国際経済）</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>① 関心・意欲・態度 ・ ・ 現代社会に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めようとする</p> <p>② 知識・理解 ・ ・ 現代社会の基本的問題とその学び方を理解し、その知識資料活用の態度識を身につけている。</p> <p>③ 技能・表現 ・ ・ 役立つ情報を主体的に選択し活用し、追求した考えた過程や結果を様々な方法で適切に表現する。</p> <p>* 定期考査・小テスト（単元テスト等）・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出（レポート・ノート等）などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>(授 業)</p> <p>*授業を大切にし、ノートは板書事項だけに終わらず、気づいた事・教師の話などメモすることも忘れず、習慣化しよう。</p> <p>*授業は常に課題・問題意識を持ち積極的に取り組み、質問に対しては真剣に考えるように心がけよう。</p> <p>*プリントなどは単元のまとめとして、基本的な事項の認識・理解を深めるためにもノートとともに整理しておこう。</p> <p>(家庭学習)</p> <p>*予習は特に必要ありませんが、テレビ・ネット・新聞により国内外の政治・経済・社会の動向に注目する習慣を身につけるようにしよう。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書『高等学校新現代社会』（帝国書院）</p> <p>各種のプリント</p> <p>副教材『新現代社会ノート』（帝国書院）</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・留意点・評価等
4	第3章 第1節 市場経済のしくみ	①経済活動と市場経済の考え方 ②市場の限界 ③経済の大きさと変動 ④企業の役割 ⑤産業構造の変化と企業 ⑥中小企業と農業の問題 ⑦金融の役割 ⑧政府と財政の役割 ⑨財政の課題	6	①市場経済の考え方を通して、経済の循環や価格の決まり方について理解する。
5			6	②市場経済と政府のかかわりについて理解し、資源の適正な配分について考察する。
6			8	③景気や物価の変動について理解し、物価の変動が生活に及ぼす影響を考察する。
7			8	④企業活動の目的や株式会社のしくみを理解し、企業の社会的責任を確認する。
8			8	⑤産業構造の高度化を理解し、日本経済の課題と今後のあり方について考察する。
9			8	⑥日本経済における中小企業や農業の状況を確認し、その課題について考察する。
10			8	⑦金融の役割や日本銀行のはたらきを理解し、金融の現状と課題について考察する。
11			8	⑧市場における政府の役割を理解し、財政政策の機能と効果について考察する。
12			8	⑨日本の財政の現状を確認し、財政の現状と課題、税制のあり方について考察する。
1			第4章 第1節 国際経済の 動向と貧困の解消	①国際経済のしくみ ②国際経済のわく組み ③進む地域経済統合とその課題 ④グローバル化が進む世界経済 ⑤経済格差と南北問題 ⑥経済援助と貧困の解消
2	8	②消費者の立場や権利を確認し、消費者を守るしくみと課題について考察する。		
3	6	③市場経済における労働者の立場を確認し、労働者の権利や女性の現状を理解する。		
	6	④雇用形態の現状と問題点を理解し、労働環境の適正な整備について考察する。		
	8	⑤社会保障の考え方と日本の社会保障制度を理解し、現状と課題について考察する。		
	6	⑥雇用形態の現状と問題点を理解し、労働環境の適正な整備について考察する。		
			8	①国際経済で貿易が行われている理由を確認し、自由貿易の課題について考察する。
			6	②為替相場のしくみを理解し、為替相場の安定と国際経済の関係について考察する。
			6	③地域経済統合の目的を理解し、国際経済に与える影響や課題について考察する。
			8	④グローバル化が進む世界経済の進展を確認し、国際金融の動向について理解する。
			6	⑤国家間の格差を理解するとともに、格差を是正するしくみや取り組みを理解する。
			6	⑥先進国による経済支援のあり方を通して国家間の経済格差解消について考察する。

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4 単位
対象学年	第2学年(特別進学コースⅠ類・Ⅱ類)		履修形態	必修	
科目の目標	式と証明、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 式と証明 1 式と計算, 2 等式と不等式の証明 3次の乗法公式や二項定理及び因数分解の公式を用いて式の展開や因数分解をすることができるようにする。等式や不等式が成り立つことを理解し証明することができる。</p> <p>(2) 複素数と方程式 1 複素数と2次方程式の解, 2 高次方程式 数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則演算をできるようにする。2次方程式の解の種類判別、解と係数の関係について理解する。因数定理を用いて、高次方程式を解く。</p> <p>(3) 図形と方程式 1 点と直線, 2 円, 3 軌跡と領域 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を求める。座標平面上の直線、円を方程式で表し、円と直線の位置関係などの考察に活用する。与えられた条件を満たす点の集合と捉え、不等式の表す領域について考える。</p> <p>(4) 三角関数 1 三角関数, 2 加法定理 角の概念を一般角まで拡張し弧度法を用いて扇形の面積や弧の長さを求める。三角関数のグラフを理解し方程式・不等式を解く。三角関数の加法定理、三角関数の合成について理解しそれらを活用する。</p> <p>(5) 指数関数と対数関数 1 指数関数, 2 対数関数 指数を正の整数から有理数に拡張する。対数の基本的な性質を理解する。指数関数、対数関数のグラフの特徴を理解し、それらを事象の考察に活用する。</p> <p>(6) 微分法と積分法 1 微分係数と導関数, 2 関数の値の変化, 3 積分法 導関数を用いてグラフの外形を描くことができるようにする。それを方程式の解や不等式の証明に活用する。定積分を用いて関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>4つの観点について、以下のものを基として総合的に評価する。 出席状況、授業への準備状況、学習態度、自己評価、課題などの提出状況 確認テストの点数、4回実施される定期考査の素点</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考え取り組む努力、いろいろな考え方を組み合わせて取り組むなどの工夫をすることが大切である。ノートは、問題を解決した際の考え方の筋道が分かるように書くようにする。別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に確保する。まずは、授業を大切に、積極的に先生に質問をするなど、理解が不十分な内容を放置しないことが大切である。家庭では、理解が不十分だと思われる問題に取り組むなど復習を徹底すること。また、問題集による演習を通して理解の定着を図り、学習内容に対する理解を確かなものにするのが大切である。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書・・・新編数学Ⅱ（数研出版） 副教材・・・3TRIAL 数学Ⅱ+B（数研出版編集部） チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）</p>				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 式と証明 第2節 等式・不等式の証明	4等式の証明 5不等式の証明	12	等式・不等式の証明方法を理解する。相加平均と相乗平均の間に成り立つ大小関係について理解し、いろいろな不等式の証明に取り組むことが出来る。
5	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解	1複素数とその計算 22次方程式の解 3解と係数の関係	16	2次方程式の解の範囲を、実数から複素数の範囲まで拡張する意義を知り、解の判別式や方程式の係数の関係を理解する。剰余の定理とその利用について理解する。
6	第2節 高次方程式	4剰余の定理と因数定理 5高次方程式	16	因数定理による多項式の因数分解、高次方程式の解法について理解する。
7	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線	1直線上の点 2平面上の点 3直線の方程式	16	数直線上や座標平面上の点について、2点間の距離や内分点・外分点の座標を求められるようにする。直線や円を方程式で表す方法について理解する。直線の傾きに着目し、2直線の平行・垂直に条件について考える。円と直線の位置関係を連立方程式の解や判別式を用いて判別する。軌跡の概念を理解し、その方程式を求められるようにする。不等式の表す領域について理解を深め、線形計画法の手法について知る。
8	第2節 円	42直線の関係 5円の方程式 6円と直線 72つの円 8軌跡と方程式 9不等式の表す領域	16	
9	第3節 軌跡と方程式		16	
10	第4章 三角関数 第1節 三角関数	1角の拡張 2三角関数	16	一般角および弧度法による表現を理解する。三角関数の相互関係や成り立つ性質を理解するとともに、単位円を用いてグラフがかけられるようにする。三角関数を含む方程式・不等式を、単位円やグラフを用いて解けるようにする。三角関数の加法定理を導き、用いることが出来るよう習熟をはかる。加法定理から2倍角の公式、半角の公式を導く。さらに三角関数の合成の方法を理解し、活用できるようにする。
11	第2節 加法定理	3三角関数のグラフ 4三角関数の性質 5三角関数を含む方程式・不等式 6三角関数の加法定理 7加法定理の応用	16	
12	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数	1指数の拡張 2指数関数 3対数とその性質 4対数関数 5常用対数	12	指数を正の整数から有理数・実数まで拡張し、指数関数を扱えるようにする。指数法則から対数の性質を導き、対数関数を扱えるようにする。指数・対数関数のグラフとその性質を理解し、方程式・不等式などへ応用する。常用対数について学び、応用を図る。
1	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数	1微分係数 2導関数とその計算 3接線の方程式 4関数の増減と極大・極小	12	平均変化率や微分係数の意味・導関数の定義を理解する。導関数の和・差・実数倍が求められるようにする。接線の方程式を導き、導関数についての考察を通して、関数の増加・減少を調べる、極大値・極小値を求めることで、3次関数・4次関数のグラフがかけられるようにする。グラフをから関数の最大・最小や方程式・不等式への応用について取り組む。微分の逆演算として不定積分を導入し、関数の和・差・定数倍の不定積分や定積分を求める。グラフで囲まれる部分の面積を求めるなど応用に取り組む。
2	第2節 関数の値の変化	5関数の増減・グラフの応用	16	
3	第3節 積分法	6不定積分 7定積分 8図形の面積と定積分	12	

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ・A	単位数	5単位
対象学年	第2学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	確率または、式と証明・高次方程式、図形と方程式について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 式と証明・高次方程式 式と証明についての理解を深め、方程式の解を発展的にとらえ、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くことや、因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ア 式と証明                      イ 高次方程式</p> <p>(2) 図形と方程式 座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。 ア 点と直線                      イ 円</p> <p>(3) いろいろな関数 三角関数、指数関数及び対数関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。 ア 三角関数                      イ 指数関数と対数関数</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 関心・意欲・態度 (2) 数学的な見方や考え方 (3) 表現・処理 (4) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。 出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査。</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みるのが大切である。 ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。 まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。 家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	教科書…改訂版新数学Ⅱ（東京書籍） 副教材…改訂版ニューアシスト新数学Ⅱ（東京書籍）				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	(数学Ⅱ)			
5	第1章 式と証明 第1節式と計算	1 多項式の割り算 2 分数式とその計算 3 恒等式	1 2	多項式の割り算の方法を理解するとともに、割り算で成り立つ等式を理解し、活用できるようにする。
6	第2節等式・不等式の証明	4 等式の証明 5 不等式の証明	1 6	分数式の四則計算が自由に行えるようにする。恒等式の概念と性質を定着させ、未定係数を決定する方法に習熟する。等式・不等式の証明方法を理解する。
7	第2章 複素数と方程式 第1節複素数と方程式の解 第2節高次方程式	1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	1 6	2次方程式の2つの解の範囲を、実数から複素数の範囲まで拡張する意義を知り、解の判別式や方程式の係数の関係を理解する。 剰余の定理とその利用方法について理解する。 因数定理による多項式の因数分解、高次方程式の解法について理解する。
8	第3章 図形と方程式 第1節点と直線	1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係	1 6	数直線上、座標平面上の点について、2点間の距離、内分点・外分点の座標を求められるようにする。
9	第2節円	5 円の方程式 6 円と直線	1 6	直線・円の方程式の求め方について理解する。 直線の傾きに着目し、2直線の平行・垂直条件について考える。
10	第3節軌跡と方程式	7 軌跡と方程式 8 不等式の表す領域	1 6	円と直線の位置関係を連立方程式の解、判別式を用いて理解する。 軌跡の概念を理解し、計算により軌跡が求められるようにする。不等式の表す領域、線形計画法の手法について理解する。
11	第4章 三角関数 第1節三角関数	1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式・不等式	1 6	一般角および弧度法の扱いを理解する。 三角関数の相互関係、性質を理解するとともに、単位円を用いグラフがかけられるようにする。
12	第2節加法定理	6 三角関数の加法定理 7 加法定理の応用	1 6	三角関数を含む方程式・不等式を、単位円やグラフを用いて解けるようにする。 三角関数の加法定理を導き、正しく使えるよう習熟をはかる。
1	第5章 指数関数と対数関数 第1節指数関数 第2節対数関数	1 指数の拡張 2 指数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	1 2	加法定理から2倍角の公式、半角の公式を求め、さらに三角関数の合成の方法を学び、応用する。
2			1 2	指数を正の整数から有理数、実数まで拡張し、指数関数を扱えるようにする。 指数法則から対数の性質を導き、対数関数を扱えるようにする。
3			1 2	指数・対数関数のグラフとその性質を理解し、方程式・不等式などへ応用する。 常用対数の応用について考える。
	問題演習			

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	3単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	ベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) ベクトル</p> <p>平面上のベクトルの意味や演算、成分および内積などの基本的な概念について理解し、ベクトルを用いて図形の性質を考察する。これらのことを通して、ベクトルの考えが有用なことを認識し、様々な図形の性質などの考察に活用できるようにする。</p> <p>平面上のベクトルについて、その意味、相等、加法、減法および実数倍について理解する。ベクトルの意味については、風の吹き方など理解しやすい事象に即して導入し、ベクトルの考えが具体的な場面に活用できるようにする。また、ベクトルの内積の意味や基本的な性質を理解し、平面図形の性質の考察に応用する。</p> <p>位置ベクトルの考えを理解し、図形の性質の考察において形式的な処理ができることを認識する。</p> <p>ベクトル方程式を取り扱い、平面図形の性質や関係をベクトルを用いて表現できるようにする。</p> <p>空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解するとともに、内積や成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して、空間図形の考察に活用できるようにする。</p> <p>空間においても座標が定められ、空間内の点は3つの実数の組として表されることを認識する。さらに、空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面上の場合と平行して同様に考察することができ、空間図形の具体的な問題の解決に応用できることを理解する。</p> <p>(2) 数列</p> <p>数列とその和および漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。簡単な数列<math>\{a_n\}</math>について、<math>n</math>と<math>a_n</math>との対応関係に着目して、数列の一般項の意味を理解する。合わせて、初項、第<math>n</math>項、末項、項数などの基本用語を学ぶ。さらに、等差数列と等比数列を理解し、その一般項を求め、更に第<math>n</math>項までの和を求められるようにする。和の記号<math>\Sigma</math>を導入して、数列の和をこの記号を使って表すことを学び、この記号の性質を調べる。続いて自然数の累乗の和の公式を導出して、記号<math>\Sigma</math>によって、いろいろな数列の和が見通しよく計算できることを理解する。</p> <p>さらに、ある数列については、その数列の各項の階差に着目すれば、その一般項が容易に求められることを理解する。ここでは、階差数列が等差数列や等比数列になるような簡単な数列を考察する。</p> <p>数列を漸化式で表し、漸化式の意味を理解します。さらに、1次の形の隣接二項間の漸化式のような簡単な漸化式で表された数列について、その一般項が求められるようにする。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(5) 関心・意欲・態度</p> <p>(6) 数学的な見方や考え方</p> <p>(7) 表現・処理</p> <p>(8) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。</p> <p>出席状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検</p> <p>確認テスト、四回の定期考査。</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫して試みる大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切に、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だったと思われる問題をひとりですらすら解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書・・・新編数学B（数研出版）</p> <p>副教材・・・3TRIAL 数学B（数研出版編集部）</p> <p>改訂版 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ+B（数研出版）</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1 ベクトル	9	ベクトルを有効線分の向きと大きさだけをだけに着目した量として、理解する。ベクトルの相等および、和、差、実数倍などの演算を定義し、線形性に着目する。ベクトルの2方向への分解を取り上げて、さらに基本ベクトル表示、成分表示の意味を理解する。ベクトルの内積とその計算法則を理解する。また、内積を利用して、2つのベクトルのなす角、線分の長さや垂直関係を調べる。
5		2 ベクトルの演算	1 2	
		3 ベクトルの成分		
6		4 ベクトルの内積		
	第2節 ベクトルと平面図形	5 位置ベクトル		位置ベクトルを導入し、線分の内分点、外分点の位置ベクトル、三角形の重心の位置ベクトルを求める。また、位置ベクトルを用いて、ベクトルに関する等式が成り立つことを示す。位置ベクトルが平面図形の性質を調べるのに有効であることを認識する。直線のベクトルによる表示を考え、その成分表示と $x$ 、 $y$ の1次方程式との関係を明らかにする。
7		6 ベクトルの図形への応用	1 2	
		7 直線のベクトルによる表示		
7	第2章 空間のベクトル	1 空間の点	1 2	空間は3次元であることを実感させ、座標空間、空間ベクトルを導入する。平行六面体という立体図形を把握し、この図形を用いて、空間ベクトルの表現をする。ベクトルの成分表示、成分計算ができるようにする。空間ベクトルの内積の計算、図形的な意味を理解する。位置ベクトルについても、平面上で求めたベクトルの公式がそのまま成り立つことを理解する。また、点Pが平面ABCにある条件の処理方法を学ぶ。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。座標空間における2点間の距離、分点の座標が求められるようにする。直線や球などの空間図形へ、ベクトルを活用する。
		2 空間のベクトル		
		3 ベクトルの成分		
8		4 ベクトルの内積		
9		5 位置ベクトル	1 2	
		6 座標空間における図形		
10	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列	1 数列と一般項	1 2	数列の第 $n$ 項を $n$ の式で表すことによって、数列が定まることを理解する。等差数列、等比数列の一般項や和の公式を導き、公式の適用や身近な数列の問題への活用ができるようにする。数列の和を示したり、和を求めるのに有用な $\Sigma$ を導入し、その性質を知り、正しい理解の上で $\Sigma$ を活用できるようにする。 $\Sigma$ を用いて、等差数列、等比数列以外の数列について、和を求めることができるようにする。階差数列から、一般項を求める方法について理解する。
		2 等差数列		
	第2節 いろいろな数列	3 等差数列の和	1 2	
		4 等比数列		
11		5 等比数列の和		
	第3節 数学的帰納法	6 いろいろな数列の和	9	
		7 階差数列		
12	第3節 数学的帰納法	8 漸化式	9	漸化式の考えを導入して、数列を帰納的に定義するというものの意味、必要性を理解する。隣接する二項間の関係が1次の形で表された数列の一般項を、求められるようにする。数学的帰納法の意味、およびそれによる証明の仕方を多くの例にあたりながら理解する。
1		9 数学的帰納法	1 2	
2			9	
3		問題演習		

教科名	数学	科目名	数学 I 演習	単位数	3 単位
対象学年	第2学年(総合コース)		履修形態	必修	
科目の目標	中学校までの復習を取り入れながら、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。				
学習内容の概要	<p>3章 三角比</p> <p>三平方の定理など基本的な内容について復習する。直角三角形における三角比の意味、それを鈍角まで拡張する意義及び図形の計量の基本的な性質について理解し、角の大きさなどを用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。</p> <p>1節 鋭角の三角比</p> <p>1 三角形                      2 タンジェント    3 サインとコサイン    4 三角比の利用</p> <p>5 三角比の相互関係</p> <p>三角比の応用</p> <p>1 三角形の面積              2 正弦定理</p> <p>3 余弦定理                    4 三角比と座標</p> <p>5 三角比の相互関係        6 鈍角の三角比と計量</p> <p>4章 集合と論証</p> <p>図表示などを用いて集合についての基本的な事項を理解し、統合的に見ることの有用性を認識し、論理的な思考力を伸ばすとともに、それらを命題などの考察に生かすことができるようにする。</p> <p>1 集合                          2 命題と集合        3 命題と証明</p> <p>5章 データの分析</p> <p>統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。</p> <p>1 データと度数分布表      2 代表値</p> <p>3 散らばりぐあいを表す値 4 分散と標準偏差</p> <p>5 相関関係                    6 相関関数</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>(9) 関心・意欲・態度</p> <p>(10) 数学的な見方や考え方</p> <p>(11) 表現・処理</p> <p>(12) 知識・理解</p> <p>の4つの観点について、以下のものを材料として総合的に評価する。</p> <p>出欠状況、学習態度、授業の準備、自己評価、提出物・ノート点検 確認テスト、四回の定期考査</p>				
学習方法	<p>基本的事項を理解し、それに従って考えを進める努力と、いろいろな考え方を工夫してやるのが大切である。</p> <p>ノートは問題解法の筋道が分かるように書き、別解や重要事項も記入できるよう、余白も十分に空けておくようにする。問題集用のノートは別冊にしておく。</p> <p>まず、授業を大切にし、積極的に先生や友達に質問をして分からないところを放置しないようにすることが肝心である。</p> <p>家庭では、理解不十分だったと思われる問題を解けるまで再度復習をすること。また、問題集などを通して理解度をはかり、その日学んだ内容をより確実なものにしておく。</p>				
教科書・教材等	<p>教科書…… 新編数学 I (東京書籍)</p> <p>副教材……改訂版ニューアシスト新数学 I (東京書籍)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	3章 三角比 1節 鋭角の三角比	1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン 4 三角比の利用	36 (12)	三角比の学習に必要な三平方の定理の復習をする。 タンジェントの意味を理解する。 サインとコサインの意味を理解する。 三角比が実際にどのように役立つかを身近な例を通して理解し、三角比の表を活用して計算できるようにする。
5		5 三角比の相互関係  (復習問題)		タンジェント、サイン、コサインの間に成り立つ関係を学ぶ。
6	2節 三角比の応用	1 三角形の面積  2 正弦定理	(24)	二辺と狭角の場合の面積公式を理解する。 正弦定理を通して三角形の3つの辺と角の間に成り立つ関係を知り、数学的な見方の良さを知る。
7		3 余弦定理  4 三角比と座標		三平方の定理の拡張となる余弦定理を通して、三角比の有用性を認識する。 直角三角形を座標平面上に組み込むことで、鈍角に拡張できること、及びその意義を学ぶ。
8	4章 集合と論証	5 三角比の相互関係  6 鈍角の三角比と計量  (復習問題)		鈍角になっても相互関係が成り立つことを学ぶ。 鈍角の場合でも正弦定理や余弦定理が使えることを知り、活用する。
9	1節 集合と論証	1 集合 2 命題と集合  3 命題と証明 (復習問題)	12 (12)	集合の表し方、記号の意味を学ぶ。 事柄の真偽の調べ方やその記号及び用語を学ぶ。 事柄の真偽の証明方法を学ぶ。
10	5章 データの分析 1節 データの分析	1 データと度数分布表	22 (22)	データの整理の仕方、その特徴や傾向を表す方法を学ぶ。 データの特徴を1つの数値で表す。
11		2 代表値 3 散らばりぐあいを表す値		データの散らばりぐあいを、中央値をもとにして、数値で表すことを学ぶ。
12		4 分散と標準偏差		データの散らばりぐあいを、平均値をもとにして、1つの数値で表す。
1		5 相関関係 6 相関係数		2種類のデータの関係を見る。 2種類のデータの相関関係の度合いを、1つの数値で表すことを学ぶ。
2		(復習問題)		2年間の総まとめをして、進学・就職に向けて必要な学力を身につける。
3	数Ⅰのまとめ	(演習)	10	



## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	3章 三角比 1節 鋭角の三角比	1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン 4 三角比の利用	36 (12)	三角比の学習に必要な三平方の定理の復習をする。 タンジェントの意味を理解する。 サインとコサインの意味を理解する。 三角比が実際にどのように役立つかを身近な例を通して理解し、三角比の表を活用して計算できるようにする。
5		5 三角比の相互関係  (復習問題)		タンジェント、サイン、コサインの間に成り立つ関係を学ぶ。
6	3節 三角比の応用	1 三角形の面積 2 正弦定理	(24)	二辺と狭角の場合の面積公式を理解する。 正弦定理を通して三角形の3つの辺と角の間に成り立つ関係を知り、数学的な見方の良さを知る。
7		3 余弦定理 4 三角比と座標 5 三角比の相互関係		三平方の定理の拡張となる余弦定理を通して、三角比の有用性を認識する。 直角三角形を座標平面上に組み込むことで、鈍角に拡張できること、及びその意義を学ぶ。 鈍角になっても相互関係が成り立つことを学ぶ。
8	4章 集合と論証	6 鈍角の三角比と計量 (復習問題)	12	鈍角の場合でも正弦定理や余弦定理が使えることを知り、活用する。
9	1節 集合と論証	1 集合 2 命題と集合 3 命題と証明 (復習問題)	(12)	集合の表し方、記号の意味を学ぶ。 事柄の真偽の調べ方やその記号及び用語を学ぶ。 事柄の真偽の証明方法を学ぶ。
10	5章 データの分析 1節 データの分析	1 データと度数分布表	22 (22)	データの整理の仕方、その特徴や傾向を表す方法を学ぶ。
11		2 代表値		データの特徴を1つの数値で表す。 データの散らばりぐあいを、中央値をもとにして、数値で表すことを学ぶ。
12		3 散らばりぐあいを表す値 4 分散と標準偏差		データの散らばりぐあいを、平均値をもとにして、1つの数値で表す。 2種類のデータの関係を見る。
1		5 相関関係 6 相関係数  (復習問題)		2種類のデータの相関関係の度合いを、1つの数値で表すことを学ぶ。
2	数Iのまとめ	(演習)	10	2年間の総まとめをして、進学・就職に向けて必要な学力を身につける。
3				

教科名	理科	科目名	物理	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	選択	
科目の目標	物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
学習内容の概要	<p>(1) 運動とエネルギー 運動とエネルギーについての基礎的な見方や考え方にに基づき、物体の運動を観察、実験などを通して探究し、力と運動に関する概念や原理・法則を系統的に理解して、それらを活用できるようにする。</p> <p>(2) 波動 水面波、音、光などの波動現象を観察、実験などを通して探究し、共通する基本的な概念や法則を系統的に理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、物理への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「物理」(第一学習社) 問題集 「リードLight ノート物理」(数研出版)</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	平面運動と剛体のつりあい	平面内での物体の運動について、また大きさのある剛体の重心やつり合いの関係について学習する。	6	直線運動を拡張した平面運動について理解する。自由落下や鉛直投げの内容を確認し、水平投射や斜方投射のそれぞれの運動について理解する。空気抵抗の特徴について理解する。
5			8	剛体にはたらく力のはたらきについて理解する。
6	運動量の保存	運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について学習する。	8	運動量の変化と力積の関係を理解する。物体にはたらく力の大きさの変化する場合について、力と時間のグラフより、平均の力を理解する。直線上や平面上での衝突、物体の分裂や合体する場合で、運動量保存の法則が成り立つことを理解する。
7			8	反発係数を学習する。
8	円運動と単振動	周期的な運動のもととなる力の性質や、運動の様子について学習する。 万有引力の法則を学び、天体、人工衛星や探査機などの運動を学習する。	8	等速円運動を学習し、加速度と向心力を理解する。遠心力を含めた慣性力を学習し、異なる観測者の立場で把握できるようにする。
9			8	単振動におけるエネルギーの関係を理解する。ケプラーの法則、万有引力の法則を学習し、万有引力と重力の関係を定量的に理解する。
10	気体の性質と分子の運動	気体の温度・圧力・体積のようなマクロな量と、気体分子の速さのようなミクロな量との関係を考え、熱機関の原理を学習する。	8	気体に関する法則を学習し、理想気体の状態方程式について理解する。気体の圧力を分子レベルで求めることを理解する。熱力学第1法則を理解し、気体の各状態変化で熱力学第1法則を適用する。熱効率を気体の状態変化と関連させて理解する。
11			8	
12	波の伝わり方	波の性質をさらに掘り下げて学習し、平面や空間を伝わる光の波の様子、その性質を学習する。	6	正弦波の式、位相について理解する。水面波の干渉を学習し、ホイヘンスの原理、平面波の反射・屈折、波の回折など、波の伝わり方について理解する。
1	音波	私たちにとって、最も身近な波動の1つである音波について学習する。	6	音波の性質や伝わり方について理解する。波源の移動と波長の変化から、音源や観測者が動くさまざまな場合のドップラー効果について、理解する。
2	光波	光の進み方や波としての光の性質を学習する。	8	凹凸レンズの性質を学習し、実像、虚像のでき方のしくみを、レンズの式や倍率の式を用いて理解する。光の干渉条件を理解する。
3			6	

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特進コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p> <p>3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>				
学習内容の概要	<p>(1) 物質の構成 物質は混合物と純物質に分類されること、物質は基本的な成分である元素からできていること、物質は熱運動をしており状態変化をすることについて学習する。</p> <p>(2) 物質の構成粒子 物質の構成粒子である原子について、その構造と周期性、そこから生成されるイオンについて学習する。</p> <p>(3) 粒子の結合 イオン結合、共有結合、金属結合について、その仕組みと性質について学習する。また、分子は極性をもっており、それにより物質の沸点などの性質が異なることについて学習する。</p> <p>(4) 物質と化学反応式 物質を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。</p> <p>(5) 酸と塩基の反応 酸・塩基、酸性・塩基性について液性の理由や強弱の原因、電離式、中和反応の量的関係、中和滴定、滴定曲線と指示薬、塩について学ぶ。</p> <p>(6) 酸化還元反応 酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は化学への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	<p>教科書 「高等学校 化学基礎」(数研出版)</p> <p>問題集 「リードLight ノート化学基礎」(数研出版)</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動	6	代表的な物質を、混合物と純物質に分類できるようになる。物質が元素という単位から構成されること、またその種類を理解する。
5	物質の構成粒子	原子とその構造 イオン 周期表	8	原子の構造を理解する。価電子が増減することで、電荷を帯びてイオンになることを理解する。価電子の数と化学的性質には関係性があることを理解する。
6	粒子の結合	イオン結合	8	原子は電子を介して結合すること、またその結合の種類と性質について理解する。
7		分子と共有結合 分子の極性 共有結合の物質 金属結合と金属	8	
8	物質と化学反応	原子量・分子量・式量	8	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を理解する。物質とその応用を理解する。化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
9		物質質量 溶液の濃度 化学反応式と物質質量		
10				
11	酸と塩基の反応	酸・塩基	8	酸・塩基の定義を理解する。酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。中和を理解し、塩の分類を学習する。また、中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12		水の電離と水溶液のpH 中和反応 塩	6	
1	酸化還元反応	酸化と還元	6	酸化・還元の定義を理解する。電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。電気分解について学習し、電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
2		酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用	8	
3			6	

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p> <p>3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>				
学習内容の概要	<p>物質の構成と化学結合 物質の構成・・・物質を構成から分類し、粒子の熱運動と物質の状態を理解する。</p> <p>物質の構成粒子・・・原子の構造を理解し電子配置やイオンの生成、周期律を学ぶ。</p> <p>粒子の結合・・・構成粒子と化学結合の関係を理解し、結合からなる結晶を学ぶ。</p> <p>物質の変化 物質と化学反応式・・・物質を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。</p> <p>酸・塩基・・・酸・塩基、酸性・塩基性について液性の理由や強弱の原因、電離式、中和反応の量的関係、中和滴定、滴定曲線と指示薬、塩について学ぶ。</p> <p>酸化・還元・・・酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は化学基礎への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「改訂版 新編 化学基礎」(数研出版) 問題集 「ステップノート化学基礎」(浜島書店)				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成と化学結合 物質の構成	1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	6	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
5	物質の構成粒子	1. 原子とその構造 2. イオン	8	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。 イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
6		3. 周期表	8	周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	1. イオン結合とイオンからなる物質 2. 分子と共有結合 3. 分子の極性 4. 共有結合の物質 5. 金属結合と金属	8	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8				
9	物質の変化 物質と化学反応式	1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量	8	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。
10		3. 化学反応式と物質質量	8	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
11	酸と塩基の反応	1. 酸と塩基 2. 水の電離と水溶液のpH 3. 中和反応 4. 塩 中和滴定実験	8	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12	酸化還元反応	1. 酸化と還元 2. 酸化・還元と酸化数	6	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
1		3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向 5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬	6	
2			8	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
3	進路対策演習	要点のまとめ・問題演習	6	上級学校入試、就職試験対策演習を中心に、進路に応じて行う。

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p> <p>3. 化学反応の量的関係、酸・塩基の性質と中和反応、酸化還元反応と電子の授受について理解できるとともに、日常生活や社会と関連付けて考察できる。</p>				
学習内容の概要	<p>物質の構成と化学結合 物質の構成・・・物質を構成から分類し、粒子の熱運動と物質の状態を理解する。</p> <p>物質の構成粒子・・・原子の構造を理解し電子配置やイオンの生成、周期律を学ぶ。</p> <p>粒子の結合・・・構成粒子と化学結合の関係を理解し、結合からなる結晶を学ぶ。</p> <p>物質の変化 物質と化学反応式・・・物質を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。</p> <p>酸・塩基・・・酸・塩基、酸性・塩基性について液性の理由や強弱の原因、電離式、中和反応の量的関係、中和滴定、滴定曲線と指示薬、塩について学ぶ。</p> <p>酸化・還元・・・酸化還元を電子の授受による酸化数の変化であると統一的に考え、酸化剤・還元剤のはたらきと、そのときにおこる化学変化を化学反応式表せるようにするとともに、その利用例として金属の精錬や電池、電気分解の原理を学習する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は化学への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(啓林館) 問題集 「ステップノート化学基礎」(浜島書店)				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成と化学結合 物質の構成	1. 混合物と純物質 2. 物質とその成分 3. 物質の三態と熱運動	6	物質の分類を把握し、成分を理解する。 物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
5	物質の構成粒子	1. 原子とその構造 2. イオン	8	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。 イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
6		3. 周期表	8	周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
7	粒子の結合	1. イオン結合とイオンからなる物質 2. 分子と共有結合 3. 分子の極性 4. 共有結合の物質 5. 金属結合と金属	8	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質として結晶を学ぶ。 分子形と極性の有無を理解する。
8				
9	物質の変化 物質と化学反応式	1. 原子量・分子量・式量 2. 物質質量	8	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。 物質質量とその応用を理解する。
10		3. 化学反応式と物質質量	8	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
11	酸と塩基の反応	5. 酸と塩基 6. 水の電離と水溶液のpH 7. 中和反応 8. 塩 中和滴定実験	8	酸・塩基の定義を理解する。 酸・塩基の強さと水素イオン濃度との関係を理解する。 中和を理解し、塩の分類を学習する。中和滴定の操作を習得し、量的関係を理解する。
12	酸化還元反応	1. 酸化と還元 2. 酸化・還元と酸化数	6	酸化・還元の定義を理解する。 電子の授受と酸化数の変化について学ぶ。 酸化剤、還元剤について学習し、それらの反応を理解する。
1		3. 酸化剤・還元剤 4. 金属のイオン化傾向	6	
2		5. 酸化還元反応と日常生活 6. 電気分解と金属の精錬	8	金属のイオン化傾向に基づいて、金属の反応性を学ぶ。 電気分解における電解液と電極でおこる反応および金属の精錬について理解する。
3	進路対策演習	要点のまとめ・問題演習	6	上級学校入試、就職試験対策演習を中心に、進路に応じて行う。

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	1 単位
対象学年	第 2 学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>1. 化学が物質を対象とする科学であり、人間生活に果たしている役割が理解できる。</p> <p>2. 物質を構成する粒子の構造と結合のしくみや種類、その違いによる物質の種類や性質の違いを理解できる。</p>				
学習内容の概要	<p>第 2 学年では化学基礎の基本として物質の構成と化学結合、物質質量や式量、化学変化と量的関係の考え方について学習する。それをふまえ第 3 学年では、酸・塩基・中和・酸化還元といった具体的化学事象について詳しく学習する。</p> <p>物質の構成と化学結合  物質の構成・・・物質を構成から分類し、粒子の熱運動と物質の状態を理解する。</p> <p>物質の構成粒子・・・原子の構造を理解し電子配置やイオンの生成、周期律を学ぶ。</p> <p>粒子の結合・・・構成粒子と化学結合の関係を理解し、結合からなる結晶を学ぶ。</p> <p>物質の変化  物質質量と化学反応式・・・物質質量を理解し、化学変化の量的関係を化学反応式の係数と関連付けて学習する。</p> <p>※ 2 年次 1 単位・3 年次 2 単位を履修し 2 年間で科目単位を修得。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価の観点は化学への関心・意欲・態度、科学的な見方、科学的な表現・処理、知識・理解の 4 項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	教科書の解説と家庭学習教材を用い上級学校の受験にむけた問題演習等。視聴覚教材を用いた学習。				
教科書・教材等	教科書 「新編 化学基礎」(啓林館) 問題集 「ステップノート化学基礎」(浜島書店)				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	物質の構成と化学結合 物質の構成	1. 混合物と純物質	3	物質の分類を把握した上で、代表的な物質の性質を理解する。
5		2. 物質とその成分	4	物質の成分を理解し分離法の重要性を学ぶ。
6		3. 物質の三態と熱運動	4	物質の三態変化は熱運動によることを学び、熱の出入りや体積の変化を理解する。
7	物質の構成粒子	1. 原子とその構造	4	原子の構造と構成粒子を学び、元素の種類や性質が構成粒子で決定することを理解する。
		2. イオン		イオンの成り立ち、性質を学ぶ。
8		3. 周期表		周期表で特徴的な元素の分類を理解し価電子と周期律の関係を学ぶ。
9	粒子	1. イオン結合とイオンからなる物質	4	原子の種類で化学結合が決定することを理解し、結合の種類と特徴・結合から作られる物質（結晶）を学ぶ。
		2. 分子と共有結合		
10		3. 分子の極性	4	分子形と極性の有無を理解する。
11		4. 共有結合の物質	4	
		5. 金属結合と金属		
12	物質の変化	1. 原子量・分子量・式量	3	元素の原子量を理解し、分子量、式量の求め方を学習する。
1	物質量と化学反応式	2. 物質量	3	物質量とその単位モルを理解する。
2			4	化学反応式の作り方を学び、化学反応式が表す量的な関係について理解する。
3		3. 化学反応式と物質量	3	物質量とその応用を理解する。

教科名	理科	科目名	化学	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修	
科目の目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 物質の状態 気体、液体、固体の性質を観察、実験などを通して探究し、物質の状態変化、状態間の平衡、溶解平衡及び溶液の性質について理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p> <p>(2) 物質の変化 化学反応に伴うエネルギーの出入り、反応速度及び化学平衡を観察、実験などを通して探究し、化学反応に関する概念や法則を理解するとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、化学への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「化学」(数研出版) 問題集 「リードLight ノート化学」(数研出版)</p>				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	粒子の結合と結晶の構造	化学結合と結晶の性質、分子間の結合、分子結晶の性質と構造・非晶質について学ぶ。	6	物質が粒子から構成されていることや、個々の粒子の結合を復習する。非晶質については新しい用語なので、通常の結晶との違いについて留意させる。
5	物質の三態と状態変化	物質の三態変化に伴う熱の出入りを学習する。飽和蒸気圧と沸騰の関係を学ぶ。	8	物質には固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、相互の変化には熱の出入りによる粒子の熱運動がもとになっていることを化学基礎でも学習しているが、次の気体の性質につながるように扱う。
6	気体	ボイル・シャルルの法則、気体の状態方程式を学ぶ。理想気体と実在の気体との違いを学ぶ。	8	気体の体積は液体や固体と異なり、圧力や温度で大きく変化することを理解する。しかもそれは気体の種類にあまり依存しないことから、気体共通の性質として、これを利用して分子量を求めるなど、実験とともにその関係を理解し、計算方法を体得する。
7	溶液	溶解度、沸点上昇、凝固点降下、浸透圧の定量的な取扱いを学ぶ。コロイド溶液の性質を学ぶ。	8	薄い溶液では共通の性質が表れることを学ぶ。また、生物体などのほか、コロイド溶液についても、身近な現象と結びつけながら学ぶ。
8	化学反応とエネルギー	熱化学方程式のつくり方を学ぶ。ヘスの法則を理解する。	8	化学変化や状態変化には熱の出入りが伴う。熱の出入りが意味することをエネルギーの観点から考え、未知の熱量を計算により、求めることを学ぶ。
10			8	
11	電池と電気分解	電池の原理、構成を学ぶ。電気分解の利用として、電解精錬や熔融塩電解を学ぶ。	8	電池の化学反応は、化学基礎の酸化還元反応の中で簡単に触れているが、もう一度復習し、続いて電気分解のしくみ、量的関係、工業的な利用法を学ぶ。
12	化学反応の速さとしくみ	反応の速さと濃度、圧力・温度との関係を学ぶ。触媒の働きとその利用を学習する。	6	その反応の速さの違いや、一部の反応については化学平衡の状態について、反応のしくみとあわせて学ぶ。物質を工業的に製造する場合、化学反応の速さや化学平衡の考え方がどのように利用されているかを学ぶ。
1			6	可逆反応においては平衡状態が存在すること、その状態は平衡定数で表されることを学び、それらをもとに質量作用の法則を理解する。また、化学平衡は濃度・圧力・温度で移動するが、その変化の仕方と、それを有効に利用する方法を学ぶ。
2			8	
3	化学平衡	可逆反応と不可逆反応、化学平衡を理解する。ルシャトリエの原理の応用例としてアンモニアの製法を学ぶ。平衡定数を学ぶ。	6	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。</p> <p>(2) 遺伝子とその働き 生物と遺伝子について探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。</p> <p>(3) 生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(4) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎」 (数研出版) 問題集 「リードlight生物基礎」 (数研出版)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	探求活動の仕方	探求活動の仕方について学ぶ。	6	ブックによる細胞発見の過程を参考にしてあてはめ、探求活動の仕方を理解する。
5	生物の共通性と多様性	生物は多様であるが共通性をもっていることを理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	8	存在する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
6	細胞とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
7	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
8	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
9	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
10	体内環境と恒常性	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
11	体内環境の維持の仕組み 免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
12	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
1	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。
2			8	
3			6	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。</p> <p>(2) 遺伝子とその働き 生物と遺伝子について探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。</p> <p>(3) 生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(4) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎」 (数研出版) 問題集 「リードlight生物基礎」 (数研出版)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	探求活動の仕方	探求活動の仕方について学ぶ。	6	ブックによる細胞発見の過程を参考にしてあてはめ、探求活動の仕方を理解する。存在する多様な生物には
5	生物の共通性と多様性	生物の多様性と共通性を理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	8	共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
6	細胞とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
7	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
8	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
9	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
10	体内環境と恒常性	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
11	体内環境の維持の仕組み 免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
12	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
1	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び	6	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。
2		生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	6	
3				

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生物の特徴 生物の多様性と共通性の視点を身につけ、生物の体を構成する共通の基本単位である細胞を構造と働きを学び、生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。</p> <p>(2) 遺伝子とその働き 生物と遺伝子について探求し、細胞の働き及びDNAの構造と機能の概要を理解する。</p> <p>(3) 生物の体内環境の維持 生物の体内環境の維持について探求し、生物には体内環境を維持する仕組みがあることを理解させ、体内環境の維持と健康との関係について認識する。</p> <p>(4) 生物の多様性と生態系 生物の多様性と生態系について探求し、生態系の成り立ちを理解し、その保全の重要性について認識する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いての問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物基礎」 (数研出版) 問題集 「リードlight生物基礎」 (数研出版)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	探求活動の仕方	探求活動の仕方について学ぶ。	6	ブックによる細胞発見の過程を参考にしてあてはめ、探求活動の仕方を理解する。
5	生物の共通性と多様性	生物の多様性と共通性を理解し、細胞および生物の構造について学ぶ。	8	存在する多様な生物には共通性と多様性があり、真核生物と原核生物、単細胞生物と多細胞生物の共通点と相違点を細胞の構造などから理解する。
6	細胞とエネルギー	生命活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について学ぶ。	8	生命活動に必要なエネルギーは呼吸により有機物から取り出され、有機物は光合成により光エネルギーを用いてつくられることを理解する。
7	遺伝情報と DNA	遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴について理解する。	8	遺伝子の本体が DNA であること、DNA が二重らせん構造であること、さらに個々の遺伝子はゲノムを構成する DNA の一部であることを理解する。
8	遺伝情報の分配	DNA が複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。	8	体細胞分裂前の DNA の複製と細胞周期における DNA 量の変化を理解する。
9	遺伝情報とタンパク質の合成	DNA の情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。	8	遺伝情報と RNA の関係を理解し、遺伝情報の発現とタンパク質合成の関係を理解する。また、タンパク質が酵素として生命現象を支えていることを理解する。
10	体内環境と恒常性	体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。	8	循環系とその働き、血液成分とその働きなどで、生物の体内環境が保たれていることを理解する。
11	体内環境の維持の仕組み 免疫	免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する。	8	自律神経とホルモンの共同作用で体内環境の恒常性が調節されていることを理解する。
12	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	細胞性免疫と体液性免疫を理解し、病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を保つ仕組みを理解する。
1	植生の多様性と分布	陸上には様々な植生が見られ、植生には長期的に移り変わっていくことを理解し、様々なバイオームが成立していることを学ぶ。	6	さまざまな植生とその違いを理解し、遷移のメカニズム、気温と降水量の違いにより、地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解する。
2	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	8	生態系では、物質が循環するとともにエネルギーが移動することを理解し、生態系のバランスと保全の重要性を理解する。
3	生態系とその保全	生態系は、物質の循環とともにエネルギーが移動することを学び生態系のバランスについての理解と、生態系保全の重要性を認識する。	6	

教科名	理科	科目名	生物	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	選択	
科目の目標	生物や生物現象に対する探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を身につけるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を養う。				
学習内容の概要	<p>(1) 生命現象と物質 生命現象を支える物質の働きについて探求し、タンパク質や核酸などの物質の働きを理解し、生命現象を分子レベルでとらえる。</p> <p>(2) 生殖と発生 生物の生殖や発生について探求し、動物と植物の配偶子形成から形態形成までの仕組みを理解する。</p> <p>(3) 生物の環境応答 環境の変化に生物が反応していることについて探求し、生物個体が外界の変化を感知し、それに反応する仕組みを理解する。</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>評価の観点は、生物への関心・意欲・態度、思考・判断、観察・実験の技能・表現、知識・理解の4項目とする。</p> <p>評価の方法は定期考査、小テスト、出席状況、課題・ノート等の提出物、授業態度等により総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>教科書の解説と問題集を用いた問題演習等。 身近な事象や視聴覚教材を用いた学習。 個々の進学・進路に応じた演習。 小テストや課題を活用した反復学習による基礎力の定着</p>				
教科書・教材等	<p>教科書 「生物」(数研出版) 問題集 「リードα生物」(数研出版)</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	生命と物質	細胞小器官や細胞の働きを分子レベルで見えていく。	6	細胞の内部構造とそれを構成する物質の特徴を理解する。 さまざまなタンパク質がさまざまな生命現象を支えていることを理解する。
5			8	
6	代謝	呼吸により有機物からエネルギーが取り出される仕組みと、光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられる仕組み、また窒素同化について理解する。	8	呼吸の仕組みである発酵、解糖系やクエン酸回路および、電子伝達系について理解し、二酸化炭素から糖をつくる炭酸同化の仕組みを理解する。また、有機窒素化合物を合成する働きである窒素同化を理解する。
7			8	
8	遺伝現象と物質	DNA 構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳の仕組み、遺伝子発現の調節を学び、バイオテクノロジーの原理とその応用を見ていく。	8	DNA の複製の仕組み、遺伝子の発現の仕組みおよび遺伝子情報の変化を理解し、遺伝子の発現が調節されていることおよびその仕組みの概要を理解させる。
9			8	遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。
10	有性生殖	減数分裂と受精により、遺伝的に多様な組み合わせが生じることを理解し、遺伝子の連鎖と組み換えについても理解する。	8	多様な遺伝子的な組み合わせが生じることや、性決定に関する特別な染色体があることを理解する。 優性形質や劣性形質による遺伝の法則、遺伝子の連鎖と組換えにより遺伝子の組み合わせが変わることを理解する。
11	動物の生殖と発生	配偶子形成と受精、器官分化の始まりまでの過程を理解する。	8	動物の配偶子形成と受精を理解し、発生初期の卵割から器官分化の始まりまでの過程を理解する。また、動物の細胞分化と形態形成を理解する。
12	植物の生殖と発生	植物の配偶子形成と受精、胚発生と花器官の分化について学ぶ。	6	植物の配偶子形成と受精の過程を理解し、胚発生の過程について理解させる。また、被子植物の器官分化の過程について理解する。
1	動物の反応と行動	外界の刺激を受容し、神経系を介して、反応する仕組みを学び、刺激に対する反応としての動物	6	受容器、効果器の働きを理解し、神経細胞が刺激を伝達する仕組みを理解する。神経系の仕組みを理解し、環境に応じた反応をする動物の行動を理解する。
2		個体の行動について理解する。	8	
3	植物の環境応答	植物が周りの環境からの刺激に応答する仕組みを理解する。	6	植物の発芽と成長、開花と老化の環境応答理解し、環境応答に関係している。植物ホルモンの働きについて理解する。

教科名	保健体育	科目名	体育（体育）	単位数	1単位
対象学年	第2学年（全）		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <p>① 集団行動 ② 器械運動 ③ 運動会練習 ④ 球技</p> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <p>① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方 ③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方</p> <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようになる。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>評価のポイント</p> <p>① 関心・意欲・態度・・・出欠見学状況・服装・提出物 ② 思考・判断（表現・創造）・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力 ③ 運動の技能・知識・理解・・・各単位の实技テスト・自己評価</p> <p>評価は各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>① 教師主導による実技を中心とした学習 ② グループ学習（場合によっては習熟度別学習を行う）</p>				
教科書・教材等	現代高等保健体育（大修館）				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の 注意事項	1	学校の教育活動全体や体育の授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。 集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	
	体づくり運動	トレーニング、ストレッチ、徒手体操	3	
5	新体力テスト	全9種目	3	自己の体力を知り、どのようにして体力を維持増進させていくかを、自分で考え実践していけるようにする。 様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。
	ニュースポーツ		4	
6	運動会種目練習	ダンス	5	リズムを体で感じ取れるようにする。 様々なステップを習得し、音楽に合わせて楽しく動けるようにする。 攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようにする。
7				
8				
9	球技	バドミントン	7	使えるフライングのバリエーションを増やし、ダブルスのゲームができるようにする。 基本技術を理解し、正しいグリップやフォームを身につけることを通して、バドミンントンの楽しさを味わう。
10				
11		バレー	7	基本技術を習得し、フライングの特色を理解して、組み合わせを考えながらシングルのゲームができるようにする。
12		フットサル	7	個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。
1				
2 3				

教科名	保健体育	科目名	ダンス	単位数	1単位
対象学年	第2学年(全)		履修形態	必修	
科目の目標	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>「運動」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 集団行動</li> <li>② 新体力テスト</li> <li>③ 器械運動</li> <li>④ 運動会種目</li> <li>⑤ ダンス</li> <li>⑥ 球技</li> <li>⑦ 陸上競技</li> </ol> <p>運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。</p> <p>「体育理論」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴について</li> <li>② 運動やスポーツの効果的な学習の仕方</li> <li>③ 豊かなスポーツライフの設計の仕方</li> </ol> <p>理論と実践の一体化を図ることによって生涯にわたって計画的に運動に親しむことができるようにする。</p>				
評価の観点・評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 関心・意欲・態度・・・・・・・・出欠見学状況・服装・提出物</li> <li>② 思考・判断(表現・創造)・・・安全への配慮・健康管理・集団への協力</li> <li>③ 運動の技能・知識・理解・・・各単元の実技テスト・自己評価</li> </ol> <p>評価は、各内容の目標に対する絶対評価を主として、個人の能力に応じた各運動・理論における個人内容評価を加味し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	教師主導による一斉授業とし、実技を中心とした学習。 グループ学習。(場合によっては習熟度別学習を行う)				
教科書・教材等	『現代保健改訂版ノート』(大修館書店) マイ・スポーツ2010(大修館書店)				

年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	オリエンテーション	体育種目説明、授業時の注意事項	1	<p>学校の教育活動全体や体育の授業において、集団として必要な行動の仕方が実践できるようにする。</p> <p>集団が一定の行動の仕方にしたがって、安全に、しかも能率的に行動することが重要であることを知る。</p> <p>自己の体力を知り、どのようにして体力を維持増進させていくかを、自分で考え実践していけるようにする。</p> <p>様々なスポーツに触れ、生徒間の親睦を深める。た</p> <p>リズムを体で感じ取れるようにする。</p> <p>様々なステップを習得し、音楽に合わせて楽しく動けるようにする。</p> <p>攻守における基本動作や基本技術を練習し、ボールを意図的に扱ったり、相手からボールを奪うことができるようにする。</p> <p>使えるフラインクのバリエーションを増やし、ダブルスのゲームができるようにする。</p> <p>基本技術を理解し、正しいグリップやフォームを身につけることを通して、バドミントンの楽しさを味わう。</p> <p>基本技術を習得し、フラインクの特徴を理解して、組み合わせを考えながらシングルのゲームができるようにする。</p> <p>個人技能をより高めるとともに、集団による技能・戦術を練習して、チームで作戦を立ててゲームができるようにする。</p>
	集団行動	集合・整頓・列の増減	2	
	体づくり運動	トレーニング、ストレッチ、徒手体操	3	
5	新体力テスト	全9種目	3	
	ニュースポーツ		4	
6				
7		ダンス	5	
8	運動会種目練習			
9	球技	バドミントン	7	
10				
11		バレー	7	
12				
1		フットサル	7	
2				
3				

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対象学年	第2学年（全）		履修形態	必修	
科目の目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	生涯を通じる健康 ① 思春期の健康 ② 性意識と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康 ⑤ 家族計画と人工妊娠中絶 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢者のための社会的とりくみ ⑧ 保健制度と保健サービスの活用 ⑨ 医療制度と医療費 ⑩ 医療機関と医療サービスの活用				
評価の観点・ 評価の方法	定期考査 ① 関心・意欲・態度・・・出欠状況・提出物・学習態度 ② 思考・判断・・・発表 知識・理解・・・自己評価				
学習方法	教科書の解説とノートの演習 グループ学習・・・テーマについて考え、意見交換。 ビデオ学習				
教科書・教材等	教科書『現代保健体育』（大修館書店） 副読本『図説 現代高等保健』（大修館書店） ビデオ				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1 思春期と健康	思春期の体と健康 思春期の心と健康	4	思春期における体の発達の特徴を理解し、行動面・心理面の特徴も理解できる。
5	2 性意識と性行動の選択	性意識の男女差と性的欲求 性に関する情報と性行動	4	性意識の男女差を性的欲求の違いを例に説明できる。性に関する情報が性行動の選択におよぼす影響について、説明できる。
6	3 結婚生活と健康 第1回定期考査	心身の発達と健康な結婚生活 結婚生活と家族の健康	4	健康な結婚生活を営むための留意点を、心身の発達の観点から理解でき、家族の健康づくりにどうかかわっているかを、説明できる。
7	4 妊娠・出産と健康	受精・妊娠・出産	3	受精・妊娠・出産の過程が説明でき、妊娠・出産期に、
8	ビデオ学習	妊娠・出産期の健康のために	1	本人および周囲の人びとが留意すべき点を挙げられる。ビデオ学習
9	5 家族計画と人工妊娠中絶	家族計画の意義 避妊法とその選択 人工妊娠中絶	3	健康上からみた家族計画の意義を理解する。避妊法を選択する際の留意点を男女それぞれの立場から挙げられる。人工妊娠中絶の条件、および女性の心身におよぼす影響について説明できる。
10	第2回定期考査 性について考える		4	
11	6 加齢と健康	加齢にともなう心身の変化 中高年期を健やかに過ごすために	4	加齢にともなう心身の変化について、形態、機能の両面から説明できる。中高年期を健やかに過ごすための留意点を説明できる。
12	第3回定期考査 7 高齢者のための社会的取り組み	高齢者の健康とその支援 保健・医療・福祉の連帯	3	高齢者の生活と健康に関する現状と、健康課題について説明できる。高齢社会に対応した総合的対策の意義と必要性を説明できる。
1	8 保険制度と保健サービスの活用	保健行政の役割としくみ 保健サービスの活用	3	保健行政の役割としくみについて説明でき、保健サービスの内容と活用法について説明できる。わが国における医療保険のしくみを説明でき、医療費が支払われるしくみを、例をあげて説明できる。
2	9 医療制度と医療費 第4回定期考査	医療費の供給と医療保険	4	医療機関の選び方について具体的に説明でき、受診場面を想定し、医療機関や医師から必要な情報を引き出すための質問事項を挙げられる。
3	10 医療機関と医療サービスの活用	医療費 医療機関とその役割 医療サービスの活用	3	

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語II	単位数	3単位								
対象学年	第2学年（特別進学コースⅠ・Ⅱ類）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点を捉えたりする。</li> <li>2 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</li> <li>4 聞いたり読んだりしたことを、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table border="0"> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> 関心・意欲・態度の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠状況</li> <li>・学習への取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> 表現力の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・既習の言語材料を使つての表現活動</li> </ul> 知識・理解の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各種テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1年次の既習事項を確認しながら、重要な新出構文を理解する。</li> <li>2 内容の展開に注意しながら音読をすることで、速読力を高める。</li> <li>3 分からない英語の意味や用法は、辞書を用いて確認する。</li> <li>4 各単元の言語材料を用いて、表現活動を行う。</li> <li>5 Note-taking や課題に取り組むことで理解度を深める。</li> <li>6 DUAL SCOPE 総合英語を用いて、文法・語法の理解を深める。</li> <li>7 能力に応じて、準2級、2級の英語検定に積極的に挑戦する。</li> <li>8 中学校既出の単語・熟語を含め、3000単語以上を習得する。</li> </ol>												
教科書・教材等	MY WAY English Communication II（三省堂） MY WAY English Communication II ワークブック（三省堂） DUAL SCOPE 総合英語（数研出版） フェイバリット コーパス3000（東京書籍）												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1年次の復習		6	
5	Lesson 1	Pictograms	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピクトグラムの意味とその歴史・文化</li> <li>・SVC, SVO / SVO(O=if 節) / SVC (C=分詞)</li> </ul>
6	Lesson 2	New Year's Celebrations	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の正月の過ごし方および日本との対比</li> <li>・SVOO( O=if 節) SVOO(O=that/ what 節)</li> </ul>
7				
8	Lesson 3	Eco-friendly Inventions	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に優しい暮らしとは何かを考える</li> <li>・形式主語の it、形式目的語の it</li> </ul>
9				
10	Lesson 4	Brazil---Far away or Close?	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラジルの歴史および日本との関係を認識する</li> <li>・SVOC 使役動詞・知覚動詞</li> </ul>
11	Reading 1	The Cat	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネコと宇宙人の会話から話の展開を推測する</li> <li>・物語の感想を英語で書く</li> </ul>
12	Lesson 5	Eye Contact	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイコンタクトの大切さを理解する</li> <li>・関係代名詞・関係副詞の制限／非制限用法</li> </ul>
1	Lesson 6	Space Elevator	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙に関するインタビュー形式の会話読み取り</li> <li>・現在完了（進行）形、過去完了（進行）形</li> </ul>
2	Lesson 7	An Encouraging Song	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を励ます歌とその歌詞に触れる</li> <li>・助動詞／助動詞+have+過去分詞、完了不定詞</li> </ul>
3	2年次の復習		8	

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4単位
対象学年	第2学年（進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	1. 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2. 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。				
学習内容の概要	1. 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 2. 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 3. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 4. 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。				
評価の観点・ 評価の方法	定期考査 70点 関心・意欲・態度 10点 表現力 10点 知識・理解 10点  関心・意欲・態度の判断基準 ・出欠状況 ・学習への取り組み ・提出物 表現力の判断基準 ・音読 ・既習の言語材料を使つての表現 知識・理解の判断基準 ・小テスト ・各種テスト				
学習方法	1 各課に出てくる文構造や文法事項を定着させる。 2 英文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。 3 音声教材を適切に取り入れ、ネイティブの発音、イントネーション、スピード等に慣れ、リスニング力を高める。家庭学習でもCD等を使い、リスニングの練習をする。 4 音読練習をすることにより、正確な発音、基本的なイントネーションや区切り等を意識し、正しく音読できるようにする。また、音読を通して、理解力、読解力、リスニング力、相手に伝える力を高める。 5 既習事項を使い、書いたり話したりすることによって自分自身のことを相手に伝える能力を養う。 6 単語・熟語の小テストを行ない、語彙力を強化する。 7 補助教材を活用し、予習・復習をする。 8 課題やノートを定期的に確認する。 9 分からない英語の意味や用法は辞書を使って確認する。 10 英検等の検定試験に積極的に挑戦する。				
教科書・教材等	All Aboard Communication English II All Aboard Communication English II Workbook 標準編 コーパス 1800				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson1	My friend in Hawaii (ハワイの友だち)	12	人を紹介する 比較表現
5	Lesson2	Streetcars in My City (私の町の路面電車)	16	ほめる 関係代名詞
6	Lesson3	Crossing Language Barriers (言葉の壁を越えて)	16	気づかう 現在完了進行形
7 8	Lesson4	The Spirit of the Forest (ヤマネ森の精霊)	16	注意を促す 間接疑問文
	Lesson5	Girl with a Pearl Earring (真珠の耳飾りの少女)		印象を述べる 名詞をうしろから説明する分詞
9	Lesson6	Grandchildren's Restaurant (まごの店)	16	目的を述べる 不定詞
10	Lesson7	A Microcosm in the Sea (海の中の小宇宙)	16	主張する 動詞の目的語になる if 節
11	Lesson8	Wings of Music (音楽の翼で世界へは ばたく)	16	夢を語る 補足説明をする関係代名詞
12	Lesson9	Magic of the Cotswolds (コッツウォルズの魔 法)	12	思い出を語る 関係副詞
1	Lesson10	Bunraku (文楽)	12	感動を表す 知覚動詞
2	Lesson11	Bitter Truth about Chocolate (甘いチョコレートの 苦い現実)	16	引用する 使役動詞 make
3	Lesson12	Hayabusa's Present from Space (はやぶさからの贈り 物)	12	訂正する 分詞構文

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4単位								
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修									
科目の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</li> <li>2 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を養う。</li> </ol>												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</li> <li>2 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</li> <li>4 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠状況</li> <li>・学習への取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・既習の言語材料を使つての表現活動</li> </ul> <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各種テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各課で提示される文構造や文法事項を定着させる。</li> <li>2 英文の概要、要点などを的確に捉えながら、正しく読みとっていく力を養う。</li> <li>3 音声教材を適切に取り入れ、ネイティブの発音、イントネーション、スピードに慣れ、リスニング力を高める。</li> <li>4 音読練習により、正確な発音、基本的なイントネーションや区切り等を意識し、正しく音読できるようにする。音読を通して、読解力や相手に伝える表現力を高める。</li> <li>5 既習事項を用いて、自分自身のことを相手に伝える表現活動を行う。</li> <li>6 コーパス1800を用いて、語彙力を強化する。</li> <li>7 ワークシートを用いて、教科書の内容理解の定着を図る。</li> <li>8 英検3級の合格を目指して、問題演習を行う。</li> </ol>												
教科書・教材等	All Aboard Communication English II（東京書籍） All Aboard Communication English II Workbook 標準編（東京書籍） フェイバリット コーパス1800（東京書籍）												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1年次の復習 Lesson1	My friend in Hawaii (ハワイの友だち)	12	人を紹介する 比較表現
5	Lesson2	Streetcars in My City (私の町の路面電車)	16	ほめる 関係代名詞
6	Lesson3	Crossing Language Barriers (言葉の壁を越えて)	16	気づかう 現在完了進行形
7	Lesson4	The Spirit of the Forest (ヤマネ森の精霊)	16	注意を促す 間接疑問文
8	Lesson5	Girl with a Pearl Earring (真珠の耳飾りの少女)		印象を述べる 名詞をうしろから説明する分詞
9	Lesson6	Grandchildren's Restaurant (まごの店)	16	目的を述べる 不定詞
10	Lesson7	A Microcosm in the Sea (海の中の小宇宙)	16	主張する 動詞の目的語になる if 節
11	Lesson8	Wings of Music (音楽の翼で世界へは ばたく)	16	夢を語る 補足説明をする関係代名詞
12	Lesson9	Magic of the Cotswolds (コッツウォルズの魔 法)	12	思い出を語る 関係副詞
1	Lesson10	Bunraku (文楽)	12	感動を表す 知覚動詞
2	Lesson11	Bitter Truth about Chocolate (甘いチョコレート の苦い現実)	16	引用する 使役動詞 make
3	Lesson12	Hayabusa's Present from Space (はやぶさからの贈り 物)	12	訂正する 分詞構文

教科名	英語	科目名	英語表現Ⅱ	単位数	2単位								
対象学年	第2学年（特進コースⅠ類・Ⅱ類）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</li> <li>2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</li> <li>4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って、会話する。</li> <li>5 英語と日本語の違いを学び、英語特有の表現を身に付ける。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠状況</li> <li>・学習の取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・既習の言語材料を使っての表現</li> </ul> <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各種テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーション能力を養うため、実際の会話に即した言語活動を多く取り入れながら英語表現を使って会話する。</li> <li>2 研修旅行で使用できる英会話表現を使った言語活動を、継続して経験する。</li> <li>2 補充プリント・ワークブックを通して、重要な学習事項の確認と定着を図る。</li> <li>3 音読を通して、英語に親しみ、語彙力と英語表現力を高める。</li> <li>4 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる時間を確保する。</li> <li>5 小テスト・各種テストの見直しを丁寧に行ない、次の学習につなげる。</li> <li>6 基本的な文法事項や構文をノートに整理・復習し、演習問題で発展学習をする。</li> </ol>												
教科書・教材等	MY WAY English Expressions II（教育出版） 準拠 ワークブック 補助プリント フェイバリット英単語・熟語 コーパス3000（東京書籍） デュアルスコープ総合英語（数研出版）												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson1	成長した友人	6	・現在形・現在進行形・その他の進行形用法
	Lesson2	クラブ活動		・未来完了形・その他の完了進行形
5	Lesson3	我が家のルール	8	・助動詞1（義務・必要性など）
	Lesson4	旅行		・助動詞2（過去の習慣・助動詞を用いた慣用表現）
6	Lesson5	日本の伝統芸能	8	・さまざまな受動態の表現
	Lesson6	私の好きなアニメ、音楽		・自動詞＋不定詞 SVO＋不定詞
7	Lesson7	私たちの町の伝統産業	8	・疑問詞＋不定詞／完了形、進行形受動態の不定詞
	Lesson8	絵画を楽しむ		・動名詞
9	Lesson9	茶道と日本の伝統文化	8	・不定詞と動名詞
	Lesson10	活躍するスポーツ選手		・様々な分詞構文 付帯状況を表す with
10	Lesson11	日本の世界遺産をめぐ る	8	・比較級・最上級などの慣用表現
	Lesson12	アジアの食文化		・関係詞の非制限用法
11	Lesson13	自分の習慣を見直す	8	・仮定法を用いたさまざまな表現
	Lesson14	語学学習の新しい方法		・間接話法／否定表現
12	Lesson15	エネルギー問題	6	・代名詞を用いたさまざまな表現
	Lesson16	余暇の過ごし方		・時間構文
1	Lesson17	レイチェル・カーソン	6	・無生物主語構文／名詞構文
	Lesson18	メディアもさまざま		・譲歩構文
2	Lesson19	化学と技術のこと	8	・結果・程度構文／目的構文
	Lesson20	職業について考える		・強調表現／同格表現
3	Lesson21	行き方について考えて みよう	6	・群動詞／群前置詞

教科名	英語	科目名	英語会話	単位数	1 単位								
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	選択									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<p>学校生活などの日常的な場面や海外生活における場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</li> <li>2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</li> <li>4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・学習への取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の言語材料を使つての speaking</li> </ul> <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・単語テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各課で取り上げられる基本表現を習得する。</li> <li>2 CD を用いた <b>Listening</b> により、必要な情報を聞き取る活動を行う。</li> <li>3 場面や目的に応じて、習得した基本表現を使って会話する。</li> <li>4 ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開する。</li> </ol>												
教科書・教材等	<p>SELECT English Conversation（三省堂）  SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂）  夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	興味のあるものを言う	3	未来表現／不定詞（名詞的用法）
5	Lesson 2	余暇について話す	4	現在形／過去形
	Lesson 3	体調や体調についてのアドバイス話す		助動詞 should
6	亜紀と拓の留学日記1	海外生活・ホームステイ先でのあいさつを学ぶ	4	
	Lesson 4	学校について話す		There is / are ~.
7	Lesson 5	天気・天候について話す	4	助動詞 will
8	Lesson 6	自分の好みを言う		動名詞
9	亜紀と拓の留学日記2	海外生活・ホームステイ先での日常会話を学ぶ	4	
10	Lesson 7	都合をたずねる、待ち合わせをする	4	現在完了形
11	Lesson 8	道をたずねる	4	SVOO の文型
	亜紀と拓の留学日記3	海外生活・学校での会話を学ぶ		
12	Lesson 9	乗り物での行き方をたずねる	3	How long ~?
1	Lesson 10	欲しいものを買う	3	現在進行形／SVC の文型
2	Lesson 11	食事を注文する	4	不定詞（形容詞的用法）
	亜紀と拓の留学日記4	海外生活・観光に必要な会話を学ぶ		
	Lesson 12	誘う、誘いに応じる		Let's ~./ Shall we ~?
3	Lesson 13	なりたい職業について話す	3	Why-Because／不定詞（副詞的用法）

教科名	英語	科目名	英語会話	単位数	1 単位								
対象学年	第 2 学年（生活教養科）		履修形態	選択									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。												
学習内容の概要	<p>学校生活などの日常的な場面や海外生活における場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</li> <li>2 関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</li> <li>4 海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・学習への取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の言語材料を使つての speaking</li> </ul> <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元テスト</li> <li>・単語テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各課で取り上げられる基本表現を習得する。</li> <li>2 CD を用いた <b>Listening</b> により、必要な情報を聞き取る活動を行う。</li> <li>3 場面や目的に応じて、習得した基本表現を使って会話する。</li> <li>4 ペアワーク、グループワークを用いて、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業を展開する。</li> </ol>												
教科書・教材等	<p>SELECT English Conversation（三省堂）  SELECT English Conversation WORKBOOK（三省堂）  夢をかなえる英単語 新ユメタン Jr.（アルク）</p>												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	興味のあるものを言う	3	未来表現／不定詞（名詞的用法）
5	Lesson 2	余暇について話す	4	現在形／過去形
	Lesson 3	体調や体調についてのアドバイス話す		助動詞 should
6	亜紀と拓の留学日記1	海外生活・ホームステイ先でのあいさつを学ぶ	4	
	Lesson 4	学校について話す		There is / are ~.
7	Lesson 5	天気・天候について話す	4	助動詞 will
8	Lesson 6	自分の好みを言う		動名詞
9	亜紀と拓の留学日記2	海外生活・ホームステイ先での日常会話を学ぶ	4	
10	Lesson 7	都合をたずねる、待ち合わせをする	4	現在完了形
11	Lesson 8	道をたずねる	4	SVOO の文型
	亜紀と拓の留学日記3	海外生活・学校での会話を学ぶ		
12	Lesson 9	乗り物での行き方をたずねる	3	How long ~?
1	Lesson 10	欲しいものを買う	3	現在進行形／SVC の文型
2	Lesson 11	食事を注文する	4	不定詞（形容詞的用法）
	亜紀と拓の留学日記4	海外生活・観光に必要な会話を学ぶ		
	Lesson 12	誘う、誘いに応じる		Let's ~./ Shall we ~?
3	Lesson 13	なりたい職業について話す	3	Why-Because／不定詞（副詞的用法）

教科名	英語	科目名	コミュニケーション英語Ⅰ演習	単位数	2 単位								
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎を重視し、1年次での学習事項を整理、復習をする。</li> <li>2 単語の発音、熟語・慣用表現・重要構文を含む英文の音読練習に重点を置き、さまざまな英語表現を身につける。</li> <li>3 身近な話題から、異文化理解、環境問題など、様々な内容の英文に触れ、それぞれの内容について考える力を養う。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10点</td> </tr> </table> <p>関心・意欲・態度の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠状況</li> <li>・学習への取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> <p>表現力の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読</li> <li>・既習の言語材料を使つての表現</li> </ul> <p>知識・理解の判断基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各種テスト</li> </ul>					定期考査	70点	関心・意欲・態度	10点	表現力	10点	知識・理解	10点
定期考査	70点												
関心・意欲・態度	10点												
表現力	10点												
知識・理解	10点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な文法事項、重要構文を整理・復習し、反復学習をする。</li> <li>2 単語・熟語を暗記し、語彙力の強化を図る。</li> <li>3 音読を通して、英語に親しみ、英語表現力を高める。</li> <li>4 学習事項をノートにまとめ、学習の定着を図る。</li> <li>5 練習問題・補充プリント・ワークブックに取り組み、学習のポイントの確認と理解を深める。</li> <li>6 小テスト・各種テストの見直しをしっかりと行い、次の学習につなげる。</li> <li>7 辞書を使ってわからない単語・熟語を調べ、確認する。</li> <li>8 予習・授業・復習の重要性を理解し、日々、英語に触れる機会を大切にする。</li> </ol>												
教科書・教材等	Watching Light（浜島書店） フェイスバリット コーパス 1800（東京書籍） <a href="http://www.hamajima.co.jp/eigo/reading/2016/watching-light.html">http://www.hamajima.co.jp/eigo/reading/2016/watching-light.html</a> から音声データをダウンロード												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Mizuki Shigeru: Another World	6	音読テスト 文法【受動態】
5	Lesson 2	Remote but Close: Brazil and Japan	8	音読テスト 文法【現在完了（継続）】
6	Lesson 3	Local Idols	8	音読テスト 文法【現在完了（経験）】
	Lesson 4	What Can Chimpanzees Do?		音読テスト どのくらい～？How much～？
7	Lesson 5	Hospital Clowns	8	音読テスト 文法【It is ～for 人 to do】
8				
9	Lesson 6	Velib' and Velo'v	8	音読テスト 疑問詞 How
10	Lesson 7	Japan's National Rugby Team	8	音読テスト 文法【比較級】
	Lesson 8	18-year-old People Go to Vote		音読テスト 文法【最上級】
11	Lesson 9	Mosquito Nets in Africa	8	音読テスト 文法【助動詞 must / have to 】
	Lesson 10	Sleep and Health		音読テスト 文法【助動詞 can / その他慣用表現】
12	Lesson 11	The First Teddy Bear	6	音読テスト that 節
1	Lesson 12	“Mottainai” Thinking in Edo	6	音読テスト 「～のうちの1つ」 one of the～
2	Lesson 13	Morocco: A Fascinating Country	8	音読テスト 接続詞【理由を表す表現】
3	Lesson 14	Moments of Happiness	6	音読テスト call OC 「O を C と呼ぶ」 SVOC

教科名	英語	科目名	英語表現 I 演習	単位数	2 単位								
対象学年	第 2 学年（進学コース）		履修形態	必修									
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。												
学習内容の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Speaking を中心とした活動では、与えられた話題について即興で話したり、聞いた内容を簡潔にまとめる活動を行う。</li> <li>2 Writing を中心とした活動では、与えられた話題について簡潔に書いたり、わかりやすく描写したる活動を行う。</li> <li>3 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめて発表する活動を行う。</li> <li>4 個人だけでなく、ペアやグループで情報を共有し、簡単な debate 活動を行う。</li> <li>5 英検の過去問を使用しながら、検定取得に必要な英語運用能力を養う。</li> </ol>												
評価の観点・ 評価の方法	<table> <tr> <td>定期考査</td> <td>70 点</td> </tr> <tr> <td>関心・意欲・態度</td> <td>10 点</td> </tr> <tr> <td>表現力</td> <td>10 点</td> </tr> <tr> <td>知識・理解</td> <td>10 点</td> </tr> </table> 関心・意欲・態度の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠状況</li> <li>・学習の取り組み</li> <li>・提出物</li> </ul> 表現力の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・speaking テスト</li> <li>・debate 活動</li> </ul> 知識・理解の判断基準 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・各種テスト</li> </ul>					定期考査	70 点	関心・意欲・態度	10 点	表現力	10 点	知識・理解	10 点
定期考査	70 点												
関心・意欲・態度	10 点												
表現力	10 点												
知識・理解	10 点												
学習方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 1 年次に学習した基本的な文法事項や構文を復習し、演習問題で発展学習をする。</li> <li>2 ワークシートを用いて、重要な学習内容の定着を図る。</li> <li>3 speaking テストを通じて、自然なアウトプットができるようにする。</li> <li>4 英検 3 級、準 2 級合格を目指して、問題演習を行う。</li> </ol>												
教科書・教材等	Vivid English Expression II（1 年次より継続使用）（教育出版） Vivid English Expression II WORKBOOK（1 年次より継続使用） 補助プリント ワークシート等												

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	Lesson 1	Enjoying My School Life	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在形、過去形、現在 [過去] 進行形 / 未来を表す表現</li> <li>・現在完了形のまとめ / 現在完了進行形</li> </ul>
	Lesson 2	I' ve Lived Here All My Life		
5	Lesson 3	I Want to Hear Your Performance	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去完了形、過去完了進行形 / 未来進行形、未来完了形</li> <li>・助動詞のまとめ / 助動詞+have+過去分詞</li> </ul>
	Lesson 4	I Like Shopping		
6	Lesson 5	I Want to Study Robotics	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞のまとめ / 助動詞+受動態</li> <li>・進行形・完了形の受動態 / 群動詞の受動態</li> </ul>
	Lesson 6	Great People I Respect		
7	Lesson 7	Studying Is Fun!	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・to-不定詞の名詞用法、形容詞用法 / to-不定詞の福祉用法</li> <li>・seem to-不定詞、It seems that... / S+V+0(it)+C+to-不定詞</li> <li>・It takes [costs]... to-不定詞 / to-不定詞+前置詞</li> </ul>
	Lesson 8	What Language Do They Speak There?		
	Lesson 9	Do You Like Your Job?		
8	9	Lesson 10	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞のまとめ / S+V+0 (助動詞、to-不定詞)</li> <li>・助動詞と不定と意味上の主語 / 完了形の助動詞</li> </ul>
		Lesson 11		
10	10	Lesson 12	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分詞のまとめ / S+V+0+C (分詞)</li> <li>・知覚動詞+0+原型 [分詞] / 使役動詞+0+原型、have [get] +0+過去分詞</li> </ul>
		Lesson 13		
11	11	Lesson 14	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・～ing を含む表現 / with+名詞+分詞</li> <li>・比較のまとめ / 劣等比較、倍数表現</li> </ul>
		Lesson 15		
12	12	Lesson 16	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比較級・最上級の強調 / 比較級を用いた表現</li> <li>・接続詞 (時、条件、譲歩) / 接続詞 (原因・理由、目的、結果)</li> </ul>
		Lesson 17		
1	1	Lesson 18	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係代名詞のまとめ / 関係代名詞 what</li> <li>・関係副詞 / 複合関係詞</li> </ul>
		Lesson 19		
2	2	Lesson 20	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係副詞 / 複合関係詞</li> <li>・仮定法過去、仮定法過去完了 / I wish+仮定法</li> </ul>
		Lesson 21		
3	3	Lesson 22	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部分否定、二重否定 / 否定語主語、準否定</li> <li>・協調表現 / 名詞構文</li> </ul>
		Lesson 22		
		Lesson 22		

教科名	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年（特別進学コース）		履修形態	必修	
科目の目標	ライフステージに応じて必要とされる、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上を図る能力と、実践的な態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 生活をつくる            家族の食生活・衣生活・住生活に必要な知識と技術を習得し、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。</p> <p>(2) 人とかかわって生きる            人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解し、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識する。</p> <p>(3) 消費者として自立する。            家庭経済や消費生活に関する基本的な知識を習得するとともに、現代の消費生活の課題について認識し、消費者として責任を持って行動できるようにする。</p> <p>・ホームプロジェクトと家庭クラブ活動            「ホームプロジェクトと家庭クラブ活動」の意義と実施方法について理解し、学習した内容を発展させ、各自が生活の中から課題を見出し、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにする。</p>				
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、(関心・意欲・態度)(思考・判断)(技能・表現)(知識・理解)とする。</li> <li>・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、実習準備や服装、清潔、安全への配慮等と定期考査の素点で総合的に評価する。</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各ライフステージの理解とともに、実習を通して実践的な態度を養う。</li> <li>・現在の生活を見つめ、よりよくするために具体的な事例や体験的な学習を通して、男女が協力して家庭や地域の生活を創造できるようになる。</li> </ul>				
教科書・教材等	教科書 「新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」(実教出版)				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	2編 生活をつくる	・私たちの食生活	6	・自分の生活を管理するために必要な衣・食・住の基本的な知識と技術を身につける。
5	1章 食生活をつくる	・栄養と食品のかかわり ・食品の選び方と安全 ・食事の計画と調理	8	・5大栄養素の種類と特徴を理解する。 ・食品添加物等を理解し、衛生面・安全面に気を付けて食生活を送ることができる。
6		・これからの食生活を考える ・調理実習	8	・自分で食品の選択ができ、計画的に調理から後片付けまでできるようにする。 ・調理実習に必要な用具を忘れずに持ってくる。また、実習のねらいを理解し、グループで協力して行うこと。
7			8	
8	1編 人とかわって生きる	・子どもを知る ・発達のすばらしさ	8	・子どもの心身の発達を知り、食生活・衣生活・健康管理・安全性について理解を深める。
9	2章 子どもとかわる	・子どもの生活 ・親になることを考えよう		・子どもの遊びの意義を理解する。
10		・すこやかに育つ環境	8	・親になることを考え、子育てのためにどのような環境が整えられるかを考えさせる。
11	2章 衣生活をつくる	・人と衣服のかかわり ・衣服の素材を見てみよう ・衣生活の管理 ・基礎縫い（実習）	8	・衣服の起源、衣服の機能を理解する。 ・繊維の種類と特徴、用途を理解する。
12			6	・取り扱い表示の記号と種類、洗濯の方法と特徴を知り、家庭での適切な手入れ、洗濯ができるようにする。 ・並み縫い、まつり縫い、半返し縫い、ボタン付けなどの基礎縫いができるようになる。
1	自分らしい生き方と家族	・自分を見つめる ・共に生きる家族	6	・ライフステージと発達課題を理解し、高校時代に何ができるか計画を立て、自分のライフサイクルを考える。
2		・家族に関する法律 ・私たちの生活を支える労働と生活時間	8	・家族に関する憲法、民法を理解する。 ・多様化する就業形態について理解し、家庭の機能を確認するとともに、自分自身の将来について考える。
3			6	

教科名	商業	科目名	ビジネス基礎	単位数	1 単位
対象学年	第2 学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	ビジネスに関する基礎的な知識と技術を習得させ、経済社会の一員としての望ましい心構えを身に付けさせるとともに、ビジネスの諸活動に適切に対応する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 商業の学習ガイダンス 商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。</p> <p>(2) ビジネスとコミュニケーション ビジネスにおける基本的なマナー、良好な人間関係を構築することの意義や必要性及びビジネスに対する望ましい心構えや態度を身に付ける。 ロールプレイングでの実習を通して実践的なビジネスマナーを身に付ける。</p> <p>(3) 経済と流通の基礎 経済の仕組みに関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。 経済主体の役割や経済を支えるビジネスについて具体的に学び、その重要性について理解を深める。 我が国における経済の歴史について学ぶとともに現代のビジネスに関する現状について理解を深める。 流通に関する仕組みを理解し、現代市場における情報技術を活用した流通やマーケティングの意義について学ぶ。</p> <p>(4) 企業活動の基礎 企業の目的について学び、企業形態や経営組織の種類、特徴について理解を深める。 資金調達の方法や企業が納める税の種類、雇用形態の特徴、企業に求められる倫理に関する基礎的、基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(5) ビジネスと売買取引 売買取引の手順について学び、売買契約の意義や実践的な態度を身に付ける。代金決済の手段と特徴について理解を深め、適切な代金決済を行うための判断力を身に付ける。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 評価は、①関心・意欲・態度、②思考・判断、③技能・表現、④知識・理解の4項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度などで総合的に評価する。</p>				
学習方法	教室で講義形式の授業を基本とするが、ロールプレイング形式での学習も行う。				
教科書・教材等	ビジネス基礎 東京法令出版 ビジネスコミュニケーション検定テキスト 実教出版				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	商業の学習ガイダンス	ガイダンス	1	・商業の学習について関心を持ち、ビジネスに関する専門知識を学ぶ上で基礎的・基本的な学習の重要性について理解を深める。
5	ビジネスとコミュニケーション	ビジネスに対する心構え	5	・ビジネスに対する望ましい心構えやビジネスにおける基本的なマナーを身に付ける。
6		人間関係とコミュニケーション	5	・場面に応じたコミュニケーションの取り方やその意義を理解する。
7	経済と流通の基礎	経済の基礎	2	・経済の基本的なしくみや考え方について学ぶ
		ビジネスの発展	5	・経済活動のなかでのビジネスの意義や役割について学ぶ。経済環境の変化に対応する能力を養う。
		流通活動とマーケティング	5	・流通にかかわるビジネスの種類を学び、その役割や仕事の内容について理解する。
10	企業活動の基礎	企業の形態と経営組織	2	・企業の種類、経営組織、起業家精神などの企業経営の基礎知識を学ぶ。
11		資金調達	5	・企業はどのように資金調達するのか。その方法と特徴について理解する。
12		雇用	5	・雇用の形態について学ぶとともに、雇用に関して企業が負う責任について考える。
1		ビジネスと売買取引	2	・売買取引や売買取引の流れなど、売買取引を行うための必要な知識を学ぶ。
2		電子商取引と代金決済	3	・代金決済はどのようになされるかを理解する。
3				

教科名	商業	科目名	情報処理	単位数	3単位
対象学年	第2学年（総合コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスの諸活動における情報の意義や役割を理解し、情報をビジネスに積極的に活用する態度を身につける。</li> <li>・コンピュータの基本的な仕組みやソフトウェアなどに関する基礎的な知識を習得し、目的に応じた機器の利用ができる。</li> <li>・表計算ソフトやワープロソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、情報通信ネットワークなどを活用したビジネス情報の処理ができる。</li> </ul>				
学習内容の概要	<p>(1) 情報の活用と情報モラル</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ビジネスの諸活動における情報の役割とコンピュータを利用した情報活用の重要性を学習する。</li> <li>② 情報化社会に参画するために個人が身につけるべき情報モラルについて学習する。</li> <li>③ コンピュータや周辺機器の仕組みと、ソフトウェアの役割を理解し、目的に応じた機器の選択や利用ができる知識を身につける。</li> </ol> <p>(2) 情報通信ネットワークとセキュリティ管理</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 情報通信ネットワークの概要と、ビジネスにおけるインターネットのさまざまな利用方法やその効果について学習する。</li> <li>② 情報通信ネットワークを利用したビジネス情報の検索と活用方法について学習する。</li> <li>③ 電子メールの利用方法について学習する。</li> <li>④ 情報化社会に参画するために個人が身につけるべきセキュリティ管理の方法について学習する。</li> </ol> <p>(3) ビジネス情報の処理と分析</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 表計算ソフトウェアの特徴を理解し、基本操作ができるように学習する。</li> <li>② 関数を利用して有用なビジネス情報を導き出すための技法を学習する。</li> <li>③ 合計、平均、最大値、最小値、判定、件数カウント、端数処理、順位付けや日付などの関数を利用できるように学習する。</li> <li>④ 表の検索や文字列の加工、データベース関数などの応用的な関数が利用できるように学習する。</li> </ol> <p>(4) 検定試験への対応</p> <p>7月 全商ビジネス文書実務検定試験3級合格を目指します。</p> <p>9月 全商情報処理検定試験3級合格を目指します。</p> <p>11月 全商ビジネス文書実務検定試験2級合格を目指します。</p> <p>1月 全商情報処理検定試験2級合格を目指します。</p> <p>随時実施 P検協会P検タイピング試験合格を目指します。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>(1) 評価は、①関心・意欲・態度、②思考・判断、③技能・表現、④知識・理解の4項目とする。</p> <p>(2) 他には、定期考査・出欠状況・提出物・態度・実技テストなどで総合的に評価する。</p>				
学習方法	情報処理教室でパーソナルコンピュータを使い、実習を中心に学習します。				
教科書・教材等	<p>最新情報処理 Advanced Computing 実教出版</p> <p>ビジネス文書実務検定模擬試験問題集 2級 実教出版</p> <p>情報処理検定模擬試験問題集 2級 実教出版</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等	
4	情報の活用と情報モラル	・ビジネスと情報	1 0	・ビジネスにおける情報の役割について具体例で考え、その役割の重要性を学習する。	
5		・情報モラル	1 4	・利用者として、ネットワーク上の被害者や加害者にならないために配慮すべきモラルやマナーについて理解する。	
6		・ハードウェアとソフトウェア	1 0	・五大装置の名称と機能や、コンピュータによる数値や文字の取り扱いの基礎を学習する。 ・ソフトウェアの分類とそれぞれの役割を学習する。	
7					
8					
9		情報通信ネットワークとセキュリティ管理	・情報通信ネットワークの概要	1 4	・情報通信ネットワークの概要を理解し、その利点を活用したさまざまな機能と役割を理解する。
10			・ビジネス情報の検索と収集	1 4	・検索の方法、手順やキーワードなどを工夫して効率的な情報検索を学習する。 ・インターネット上の情報について、発信元や入手経路等の特性により正確性や価値を判断する必要があることを理解する。
11	・ビジネス情報の受信と送信		1 0	・情報モラルやマナーにしたがった正しい判断に基づく情報の検索や活用および電子メールの利用ができる。	
12	・セキュリティ管理の基礎		1 0	・IDやパスワードの管理、ウイルスチェック、データのバックアップなど、個人レベルでのセキュリティ管理ができるように学習する。	
1			8		
2	ビジネス情報の処理と分析	・基本的な表の作成	1 0	・データの入力やワークシートの編集などの基本的な操作ができるようにする。 ・数学や統計、論理、検索、日付、文字列などの関数を利用した表ができるようにする。	
3		・関数を利用した表の作成	1 0		



## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	1. 子どもの発達の特 性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達と乳幼児期の意義</li> <li>・発達と保育環境</li> <li>・児童観と発達観</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期は人間の発達の基礎を培う時期であり、特に、この時期の親のかかわり方や環境とのかかわりが重要であることを理解する。</li> </ul>
5	※保育検定4級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育検定4級</li> <li>○言語表現技術</li> <li>○造形表現技術</li> <li>○家庭看護技術</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発達は大きくとらえると共通性があるが、それぞれ個別的特徴をもって発達していくものであることを理解する。</li> </ul>
6			8	
7			8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係の発達については、乳幼児期における「愛着」が重要であることを、具体的な事例を通して理解する</li> </ul>
8				
9	2. 子どもの発達の過 程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発育</li> <li>・子どもの精神発達</li> <li>・人間関係の発達</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・童話や物語の短い文章を正しく読んだり表現したりすることにより、幼児の発達段階にふさわしい言語表現の基礎的技術が身に付いているかを検定する。</li> </ul>
10	※保育実習		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理、栄養と食事、被服、睡眠、排泄、遊びなどについて、具体的に取り扱い、適切な世話ができるようにする。</li> </ul>
11	※保育検定3級	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育検定3級</li> <li>○言語表現技術</li> <li>○造形表現技術</li> <li>○家庭看護技術</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の形成は、個人差に配慮し、乳幼児の心身の発達の準備状態に合わせて最適の時期を選び、反復練習を行い、自らやる気にさせる働きかけが大切であることを理解する。</li> </ul>
12			6	
			6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の活動の様子・保育者の指導の様子を観察する。</li> </ul>
1	3. 子どもの生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活と養護</li> <li>・子どもの遊び</li> <li>・生活習慣の形成</li> <li>・健康管理と事故防止</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児に対する親の育児態度、家族関係、地域環境などの影響などについて具体的に考える。</li> </ul>
2			6	
3			6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙を幼児とのコミュニケーションを図る手段として活用できる基礎技術を身につける。</li> <li>・だっこ・授乳・検温など乳児の発達段階に応じたお世話をすることができる。</li> </ul>

教科名	家庭	科目名	生活と福祉	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	高齢者の健康と生活、介護などに関する知識と技術を習得させ、高齢者の生活の質を高めるとともに、自立生活支援と福祉の充実に寄与する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>第1編 私たちの暮らしと生活支援</p> <p>第1章 生活支援の理解</p> <p>第2章 生活支援に向けたアセスメント</p> <p>第2編 自立に向けた生活支援技術</p> <p>第1章 居住環境の整備</p> <p>第2章 家事の介護</p> <p>第3章 身じたくの介護</p> <p>第4章 移動の介護</p> <p>第5章 食事の介護</p> <p>第6章 入浴・清潔保持の介護</p> <p>第7章 排泄の介護</p> <p>第8章 睡眠の介護</p> <p>第3編</p> <p>第1章 終末期の介護</p> <p>第2章 緊急時の介護</p>				
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (技能・表現) (知識・理解) とする。具体的には、以下のとおりである。</li> <li>*出欠状況 (実技の出席4/5以上を原則とする)</li> <li>*授業態度・実技 (私語、何もしない等授業に不参加の場合、実習点はゼロとする)</li> <li>*課題提出・学習プリントの提出状況、ノート提出等</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容理解とともに、実習等を通して実践的な態度を身につける。</li> <li>・日常生活に密接に関係しているため、日々の生活の中から課題を見つけ、解決法を考える。</li> </ul>				
教科書・教材等	教科書「生活支援技術」(実教出版)				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第1編 1. 生活支援の理解	・尊厳と自立生活支援	6	・QOLやノーマライゼーションという言葉の意味を理解し、自立生活支援の意義と目的を考える。 ・多職種連携によるチームアプローチの必要性を考えながら生活支援を必要とする人の理解を深める。
5	2. 生活支援に向けたアセスメント	・介護従事者としての価値観 ・障がい者への理解 ・認知症高齢者への理解	8	
6	第2編 1. 居住環境の整備	・居住環境整備の意義・基本理念	8	・バリアフリーとユニバーサルデザインについて理解する。 ・安心して快適な生活の場とは何か、実生活の中から考える。
7	2. 家事の介護	・調理・洗濯・掃除・裁縫 衣類・寝具の衛生・買い物 家庭経営		
8	3. 身支度の介護	・身支度における介護技術	8	・高齢者の心身の特徴を理解し、具体的事例を通して生活援助の必要性を考える。
9	4. 移動の介護	・自立生活を支える移動・移乗の介護（実技）	8	・体位変換等の実習でボディメカニクスを活用し、重心のかかり方や姿勢を学ぶ。 ・車いすの基本操作を理解し、安全に動かすことができる。
10	5. 食事の介護	・食事の意義と介護の目的（実技）	8	・安全安楽な食事介護ができるよう介助の仕方を理解する。
11	6. 入浴・清潔保持の介護	・人間にとっての清潔の意義と目的	8	・生活の活性化や社会生活の拡大につながる心理的・社会的な意義があることを理解する。
12	7. 排泄の介護	・人間にとっての排泄の意義と目的（実技）	6	・排せつ介助のための用具の選択ができる。 ・おむつを用いた介助を通して、残存能力の活用と自立支援について理解する。
1	8. 睡眠の介護	・睡眠の意義と目的	6	
	9. レクリエーションにおける介護技術	・生活支援上のレクリエーション		・レクリエーションの意義を理解し、個別レクリエーションと集団レクリエーションの援助計画、実施が展開できる。
2	第3編 ・終末期の介護	・終末期における介護の役割	8	・基本的な支援、コミュニケーション、家族への支援を理解し、終末期における介護の重要性を認識する。
3	・緊急時の介護	・緊急時におこりやすい事故とその対応	6	・高齢者におこりやすい事故等を把握し、予防対策や、応急手当の要点などを理解する。

教科名	家庭	科目名	服飾手芸	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科）		履修形態	必修	
科目の目標	手芸の種類、特徴及び変遷、各種手芸の技法などに関する知識と技術を習得させ、手芸品を創造的に製作し、服飾に活用する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>(1) 手芸の種類と特徴 刺しゅう、染色、織物、編物、その他の手芸などについて、作品を実際に見たり触れたりして、手芸の技法や特徴を理解させる。</p> <p>(2) 文部科学省後援 家庭科技術検定 前期：被服製作4級（基礎縫い）昨年度不合格者の全員合格を目指す。 後期：被服製作3級（アウターパンツ）</p> <p>(3) 作品作り ・主に刺しゅうでデザインを描いて、生活に必要とされる作品、あるいは小物作りを行う。 ・個々にパッチワークを行い、共同制作作品を完成させる。</p>				
評価の観点・評価の方法	<p>・評価の観点は、（関心・意欲・態度）（技能・表現）（知識・理解）とする。 具体的には、以下のとおりである。 *出欠状況（実技の出席4/5以上を原則とする） *授業態度・実技（私語、何もしない等授業に不参加の場合、実習点はゼロとする） *課題提出・実習の記録、ノート提出等</p>				
学習方法	<p>・教科書の内容理解とともに、実習等を通して実践的な態度を身につける。 ・日常生活に密接に関係しているため、日々の生活の中から課題を見つけたり、解決法を考えたりする。</p>				
教科書・教材等					

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	・刺しゅう	基本縫い ・ヨーロッパ刺しゅう ・日本刺しゅう ・スウェーデン刺しゅう	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>色の組み合わせとステッチの使い方、繊細なものからラフなものまで、変化があることが特徴であると理解する。</li> <li>布を数えながらすすって刺す刺しゅうであることを理解する。</li> <li>さまざまなステッチの技法を習得し、作品作りを行う。</li> <li>自ら図案を考えて製作する。</li> </ul>
5			8	
6	・被服検定4級 ・4級合格者は作品づくり	文部科学省後援全国高等学校家庭科技術検定被服製作4級基礎縫い	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>手縫い（なみ縫い・まつり縫い・半返し縫い・ボタン付け）ミシン縫い（直線縫い・曲線縫い・角）等正しく基本縫いができる。</li> <li>ミシンや用具の取り扱い、縫製に関する基礎的な事項を理解する。</li> </ul>
7			8	
8			8	
9	・被服検定3級	・3級アウターパンツの製作	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>被服検定3級は以下の流れで計画に従って能率的に製作する。</li> <li>型紙の基本</li> <li>デザインと材料の選択</li> <li>裁断</li> <li>仮縫いと補正</li> <li>縫製</li> <li>仕上げ</li> <li>着装</li> </ul>
10			8	
11			8	
12			6	
1	・個人またはグループ製作	・テーマを設定し、テーマに沿った作品作りを行う	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>ファッション製品を創造的に製作する力を身につける。</li> <li>創意工夫やアイデアを生かして適切な表現技法によりファッション製品を製作することができる。</li> </ul>
2			8	
3			6	

教科名	家庭	科目名	フードデザイン	単位数	2 単位
対象学年	第2学年（生活教養科 保育コース）		履修形態	必修	
科目の目標	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識と技術を習得し、食事を総合的にデザインする能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>第3章 食品の特徴・表示・安全</p> <p>1節 食品の特徴と性質</p> <p>1 穀類           1 1 肉類</p> <p>2 いも類       1 2 卵</p> <p>3 砂糖           1 3 牛乳・乳製品</p> <p>4 豆類           1 4 油脂類</p> <p>5 種実類       1 5 かんてん・ゼラチン</p> <p>6 野菜類       1 6 し好食品</p> <p>7 くだもの類 1 7 調味料・香辛料</p> <p>8 きのこと類 1 8 加工食品と加工方法</p> <p>9 海藻類       1 9 特別用途食品と保健機能食品</p> <p>10 魚介類</p> <p>2節 食品の生産と流通</p> <p>1 第一次産業の現状</p> <p>2 食品の生産</p> <p>3 食品の流通</p> <p>3節 食品の選択と表示</p> <p>1 食品の多様化</p> <p>2 食品の選択</p> <p>3 食品の表示</p> <p>4節 食品の衛生と安全</p> <p>1 食中毒</p> <p>2 台所の衛生</p> <p>3 食品添加物</p> <p>通年：調理実習を取り入れる</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) の4項目とする。</p> <p>・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、実習準備や服装、清潔、安全への配慮等と定期考査の素点で総合的に評価する。</p>				
学習方法	食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を習得し、実習を通して、計画、実践できる能力や態度を育てる。				
教科書・教材等	教科書 「フードデザイン」 (実教出版)				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	第3章 食品の特徴・表示・安全	穀類 いも類	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常よく使用される食品を取り上げ、それぞれの食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解する。</li> <li>・食品の調理上の性質を踏まえた調理法を理解する。</li> <li>・加工食品の種類と特徴を理解する。</li> <li>・製品例を挙げることによりにより、食生活の多様化や利便性を考える。</li> <li>・食品の生産、流通などの現状について理解する。</li> <li>・食品の多様化の現状および食品の表示について理解する。</li> <li>・より良い食品を選択するためにおのおのの食品の鑑別方法を知る。</li> <li>・食中毒の種類や特徴を知り、台所の衛生について理解を深め、実践できる力を養う。</li> <li>・調理に必要な調理技術の基礎を身につける。</li> <li>・安全性や衛生面から服装を整え、実習に意欲的に取り組む。</li> <li>・衛生的かつ安全に実習に取り組むことができる。</li> </ul>
5		砂糖 豆類	8	
6		種実類 野菜類 くだもの類	8	
7		きのこ類 海藻類	8	
8		魚介類 肉類 卵 牛乳・乳製品	8	
9		油脂類	8	
10		かんてん・ゼラチン し好食品	8	
11		調味料・香辛料	8	
12		加工食品と加工方法	8	
1		特別用途食品と保健機能食品	8	
2		食品の生産と流通	8	
3		食品の選択と表示	8	
4	4節 食品の衛生と安全	6		
5	1 食中毒	6		
6	2 台所の衛生	6		
7	3 食品添加物	6		
8	第4章 調理の基本	調理操作	8	
9		非加熱操作	6	
10		加熱操作 加熱調理器具	6	
11	調味操作	6		

教科名	家庭	科目名	食文化	単位数	2 単位
対象学年	第2学年（普通科総合コース）		履修形態	選択	
科目の目標	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を習得させ、食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を育てる。文部科学省後援家庭科調理検定4級の取得を目指す。				
学習内容の概要	<p>(1) 食文化の成り立ち</p> <p>(2) 日本の食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活の変遷</li> <li>・日常食、行事食、郷土料理</li> </ul> <p>(3) 世界の食文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の料理の特徴と文化</li> <li>・食生活の国際化</li> </ul> <p>(4) 食文化の伝承と創造</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調理実習（日常食・行事食・郷土料理）</li> <li>・食物検定 4級</li> </ul>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>・評価の観点は、(関心・意欲・態度)、(思考・判断)、(技能・表現)、(知識・理解)の4項目とする。</p> <p>・具体的な評価は、出席状況、授業態度、ノートの提出状況、実習・検定への取り組み状況、実習準備や服装、自己評価、定期考査の素点で、総合的に評価する。</p>				
学習方法	生活の多様化に伴い、食生活も変化している。日常の食生活に必要な技術を学ぶとともに、日本、世界の食文化を通じて、広い視野を身につける。				
教科書・教材等					

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等		
4	食文化の成り立ち	日本および諸外国の食文化の成り立ち	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の食生活について各時代に特徴を概観し、気候風土、宗教、風俗、習慣とのかかわりを考えるとともに、食習慣や食生活のあり方に関心を持つ。</li> <li>・基礎的な調理技術、調理法を身につける。 (非加熱調理・加熱調理)</li> <li>・食物検定4級</li> <li>・日常の食生活の重要性を理解し、健やかな食生活を営むことができるようになる。</li> <li>・伝統的な行事に伴う料理や食材などを取り上げ、その由来や託された思いなどを理解する。</li> <li>・地域に伝わる郷土料理では食の地域性について理解する。</li> <li>・本膳料理、懐石料理、会席料理などの様式について、その流れや特徴を理解する。</li> <li>・日本の食文化と伝統を理解し、基本的な食事の作法を身に着ける。</li> <li>・世界の主な食文化圏とその料理の特徴を理解する。</li> <li>・主食、調理方法、宗教と食物禁忌などの視点から分類し、地域的な特徴も理解する。</li> <li>・特に研修旅行先のシンガポールの地域文化、食文化、料理の特徴等は理解を深める。</li> <li>・食生活の変容に伴う問題点を考える。</li> <li>・日本の食文化を踏まえ、日常食等の料理を作ることができる。</li> <li>・各自の工夫を生かした料理を作ることができる。</li> </ul>		
5			8			
6			8			
7			日本の食文化		日本の食文化 ・食生活の変遷 ・日常食	8
8						8
9						8
10						6
11			世界の食文化		・世界の料理の特徴と文化	6
12						8
1			食文化の伝承と創造		・調理実習 日常食 行事食 郷土料理	6
2	8					
3	8					

教科名	家庭	科目名	調理	単位数	4 単位
対象学年	第2学年（生活教養科フードコース）		履修形態	必修	
科目の目標	様式別調理、大量調理などに関する知識と技術を習得させ、健康の維持・増進に寄与する食生活の充実向上を図るとともに、創造的に調理する能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>第4章 調理の基本</p> <p>1節 調理の目的</p> <p>2節 食べ物のおいしさ</p> <p>3節 調理器具と調理操作</p> <p>第5章 料理形式とテーブルコーディネート</p> <p>1節 料理様式と献立</p> <p>2節 テーブルコーディネート</p> <p>第6章 フードデザイン実習</p> <p>1節 食品の選択と調理</p> <p>2節 献立作成</p> <p>・家庭科技術検定 食物調理2級：日常食の献立と調理 (年間2回－7月・2月－の検定で全員2級取得を目標とする)</p>				
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は（関心・意欲・態度）（思考・判断）（技能・表現）（知識・理解）とする。</li> <li>・具体的には、出席状況、授業態度、課題・学習プリント・ノートの提出状況、定期考査、実習に取り組む姿勢・態度、観察の記録、自己評価で、総合的に評価する。</li> <li>・実習時にはエプロン・三角巾を着用する。つめを短く切る。</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の意義と役割について理解するとともに、豊かな食事を構成するための知識や技術を身につける。</li> <li>・実習・検定を通して、衛生・献立作成・準備・基本的調理操作・片付けまで、実践に生かせる能力・技術を身につける。</li> <li>・農園実習を通して、作物の植え付け、収穫までを経験し、食品加工に携わる知識・技術を習得する。</li> </ul>				
教科書・教材等	教科書「フードデザイン」（実教出版）				

## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等
4	食物検定 2 級	献立作成	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の栄養的特徴等を理解して、課題に応じた日常食の献立作成および調理ができる。</li> <li>・食物検定 2 級献立作成</li> </ul>
5	第 4 章 調理の基本	調理の目的 食べ物のおいしさ 調理器具と調理操作 食品の選択と調理	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常よく使用される食品を取り上げ、食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解する。</li> <li>・調理に関する基礎的な事項や食品群別摂取量の見方を理解するとともに、材料にあった野菜の切り方ができるようにする。</li> <li>・加工実習</li> </ul>
6			16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加工実習</li> </ul>
7	食物検定 2 級		16	食物検定 2 級実技試験
8	第 5 章 料理様式とテーブルコーディネート		16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や周囲の環境づくりができるようにし、食空間を演出する感性や表現力を養う。</li> </ul>
9			16	
10	第 6 章 フードデザイン実習		16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常食、行事食、供用食などの調理に必要な知識と技術を習得する。</li> <li>・季節、行事、料理様式、対象などから具体的な食事テーマを設定し、目的に応じた献立作成ができるようにする。</li> <li>・加工実習</li> </ul>
11			12	
12	食物検定 1 級		12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物検定 1 級練習 かつらむき、ねじ梅、カスタードプディング、ババロア</li> </ul>
1	食物検定 1 級		16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物検定 1 級献立作成</li> <li>・作成した献立に適した食品を選択し、食品の調理性を踏まえた適切な調理ができるようにする。</li> </ul>
2	調理実習 加工実習		12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物検定 1 級献立作成</li> </ul>
3				



## 年 間 授 業 計 画

月	項 目	学 習 内 容	時間	学習のポイント・評価等	
4	第3章 食品の特徴・表示・安全	穀類 いも類	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常よく使用される食品を取り上げ、それぞれの食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化について理解する。</li> <li>・食品の調理上の性質を踏まえた調理法を理解する。</li> <li>・加工食品の種類と特徴を理解する。</li> <li>・製品例を挙げることにより、食生活の多様化や利便性を考える。</li> <li>・食品の生産、流通などの現状について理解する。</li> <li>・食品の多様化の現状および食品の表示について理解する。</li> <li>・より良い食品を選択するためにおのおのの食品の鑑別方法を知る。</li> <li>・食中毒の種類や特徴を知り、台所の衛生について理解を深め、実践できる力を養う。</li> <li>・調理に必要な調理技術の基礎を身につける。</li> <li>・鶏卵の鮮度判別やじゃがいもの裏ごしなど簡単な実験を通して食品の特徴や性質を理解する。</li> </ul>	
5		砂糖 豆類 種実類 野菜類 くだもの類	8		
6		きのこ類 海藻類 魚介類 肉類 卵 牛乳・乳製品 油脂類 かんてん・ゼラチン し好食品	8		
7		調味料・香辛料	8		
8		加工食品と加工方法 特別用途食品と保健 機能食品	8		
9		食品の生産と流通	8		
10		4. 第一次産業の現状 5. 食品の生産 6. 食品の流通	8		
11		食品の選択と表示 4. 食品の多様化 5. 食品の選択 6. 食品の表示	8		
12		4節 食品の衛生と安全	6		
1		1 食中毒 2 台所の衛生 3 食品添加物	6		
2		第4章 調理の基本	調理操作		8
3			非加熱操作 加熱操作 加熱調理器具 調味操作		6

教科名	家庭	科目名	保育技術	単位数	2単位
対象学年	第2学年（生活教養科・保育コース）		履修形態	必修	
科目の目標	<p>子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解し、身体を通して表現できる能力と態度を育てる。</p> <p>保育実習を通して、子どもの発達の様子や保育者の指導の様子を理解する。</p> <p>保育検定4級・3級に挑戦し、資格取得を目指す。</p>				
学習内容の概要	<p>*音楽・身体表現活動</p> <p>(1) 身体を使った表現</p> <p>ア 手拍子によるリズム表現</p> <p>イ ボディ・パーカッション</p> <p>(2) 子どものために作られた歌</p> <p>ア わらべうた イ 唱歌</p> <p>ウ 童謡 エ あそび歌</p> <p>(3) 楽器演奏や伴奏</p> <p>ア 器楽</p> <p>イ ピアノによる伴奏</p> <p>(4) 大人と一緒に楽しむ音楽</p> <p>ア CDやDVD</p> <p>イ ミュージカル</p> <p>(5) 楽典基礎</p> <p>*保育検定 ○音楽・リズム表現技術</p> <p>*校外学習（保育園での保育実習）</p> <p>子ども達の活動の様子・保育者の指導の様子を観察する。</p>				
評価の観点・評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点は、(関心・意欲・態度) (思考・判断) (技能・表現) (知識・理解) とする。</li> <li>・具体的な評価は、出席状況、授業態度、課題・作品・学習プリント・ノートの提出状況、保育実習への取り組み状況、観察の記録や実習の記録、自己評価、定期考査の素点で総合的に評価する。</li> </ul>				
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期が人間の発達の基礎を培う重要な時期であることを理解し、生活の特徴や生活習慣の形成などを乳幼児との触れ合いなどを通して、実践的・体験的に学習する。</li> </ul>				
教科書・教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書</li> </ul>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等
4	1. 子どものために作られた歌	・歌唱 (童謡・わらべうた)	6	・子どもにとって音楽とは、感情や感覚に訴えてくるものであることを理解する。 ・子どもに歌いかけたり、共に歌ったりすることの重要性について考える。
5	2. 身体を使った表現	・リズム打ち ・手拍子を用いた歌唱	8	・子どもは、歌うことと身体を動かすことは切り離すことができないことを理解する。 ・身体を通して表現することが心身の調和のとれたリズムカルな動きを作るとともに創造力を育てるためにも大切であることを理解する。
6		・リズム・アンサンブル (ボディ・パーカッション)	8	
7		・保育検定4級 ○音楽・リズム表現技術	8	・歌唱の基礎的な表現技術を検定する。 ・発声に無理がなく、正しい音程とリズム、で相手に歌いかける技術を身につける。
8 9				
10	3. 楽器演奏	・ピアノ実技	16	・バイエル教則本のNo. 30～47を練習する。(3級検定課題) ・弾く速さが安定維持でき、良いテンポで演奏できるようにする。
11		・保育検定3級 ○音楽・リズム表現技術	6	・ピアノ演奏と歌について、速さが安定維持でき、心地よいテンポで相手に音楽を伝える技術を身につける。
12	4. 大人と一緒に楽しむ音楽	・ミュージカルの鑑賞	8	・ミュージカルの鑑賞を通してCDやDVD機器の扱い方と適切な活用について考える。
1	5. 楽典基礎	・基礎的な音楽通論	6	・保育検定2級の取得を見据えて、基礎的な楽典を理解し、筆記試験対策をする。
2			8	
3			6	

教科名	キャリア教育	科目名	BUプラン(学校設定)	単位数	2単位
対象学年	第2学年(総合)		履修形態	選択	
科目の目標	将来、地域社会を担っていく上で必要となる一般教養、論理的思考力、探求心、問題分析能力、問題解決能力などを身に付けるとともに、自分自身の生き方を考え、主体的に学習する態度を育成する。				
学習内容の概要	<p>○一般教養</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人文科学(言語分野が中心) 同意語、反意語、二語の関係、語句の意味、語句の用法、文章理解など</li> <li>社会科学 地理、政治、経済、時事問題</li> <li>自然科学(数的分野が中心) 小数・分数、四則演算、割合と比、金銭計算、推論、確率など</li> </ol> <p>○郷土理解 鳥取県の地理、歴史、産業などについて理解を深める。</p> <p>○表現力 エッセイ(自らがテーマを設定し、小論文を作成し、発表をおこなう)</p>				
評価の観点・ 評価の方法	<p>①関心・意欲・態度 ・・自立した社会人として生きていくために必要な能力を身に付けるために主体的に学び、理解しようとしているか</p> <p>②知識・理解 ・・一般教養や論理的思考力が身に付いたか</p> <p>③技能・表現 ・・習得した知識をもとに自分の考え方を適切に表現できるか。</p> <p>定期考査・小テスト(単元テスト等)・出席状況・授業中の態度(質問に対して真剣に考える姿勢等も含む)・課題提出(レポート・ノート等)などを活用し、総合的に評価する。</p>				
学習方法	<p>①興味・関心を持って授業に取り組む。</p> <p>②日々のできごとに関心を持ち、自分で考える習慣をつける。</p>				
教科書・教材等	<p>○自主作成プリント</p> <p>○ワークシート ほか</p>				

## 年間授業計画

月	項目	学習内容	時間	学習のポイント・評価等		
4	一般教養（人文科学） ※特に言語分野	同意語	6	○日常生活の中で目にしたり、会話や文章の中で使用したりするような言葉の意味や用法などを正確に理解する。  ○評論文や小説の文章を正確に読み、味わう。  ○漢字の読み書きに関して、高校卒業レベルまでの理解を目指す。		
5		反意語 二語の関係 語句の意味 語句の用法 文章整序 文章理解	8			
6		漢字の読み 漢字の書き 思想・文化・歴史	8			
7			8			
8		一般教養（社会科学）	地理		8	○時事問題にも気を配りながら、社会のしくみや社会参加の在り方について考える。
9			政治 経済 時事問題			
10						
11	一般教養（自然科学） ※特に数的分野	四則演算 小数・分数 割合と比 損益計算 推論 図形	8	○基本的な計算力や論理的思考力を身に付ける		
12			8			
1	郷土理解	鳥取の地理 鳥取の歴史 鳥取の文化 鳥取の産業 鳥取の自然	6	○郷土である鳥取の特色を多様な角度から眺め、分析し、深く理解することで、郷土愛を深め、自らの生き方を見直すきっかけをつかむ		
2			8			
3	エッセイおよびプレゼンテーション	1年の学びを振り返り、自分でテーマを決定	6	○学習のまとめとして、研究発表を行う。		